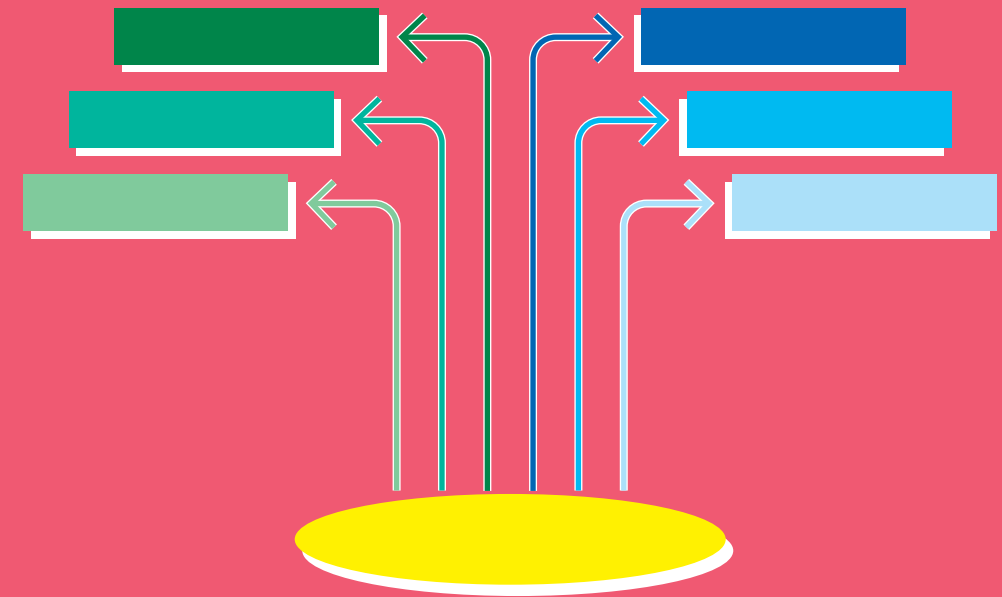


ガイダンス時に必ず持参すること

2013 (平成25年度)

# 全学教育科目 履修案内

*Handbook for General Education Requirements*



2013 (平成25年度)  
静岡大学 全学教育科目

## 履 修 案 内

発行 静岡大学大学教育センター  
〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

編集 静岡大学大学教育センター  
授業計画実施専門委員会

静岡大学大学教育センター

学籍番号	
氏 名	

休業・臨時休講

2013(平成25)年度 授業日カレンダー

試験  
集中  
月曜日授業  
静大祭(浜松)  
静大祭(静岡)  
補講(浜松)  
補講(静岡)

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
4月	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
10月	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29
	30	31				

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5月	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28
	29	30	31			

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
11月	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30		

日	月	火	水	木	金	土
						1
6月	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	

日	月	火	水	木	金	土
12月	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30
	31					

日	月	火	水	木	金	土
7月	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30
	31					

日	月	火	水	木	金	土
1月	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30
	31					

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
8月	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	

日	月	火	水	木	金	土
						1
2月	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	

日	月	火	水	木	金	土
9月	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30
	31					

日	月	火	水	木	金	土
						1
3月	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31

行事予定 2013年度

学年開始	4月 1 日
入学式	4月 4 日
全学教育科目・教務ガイダンス	4月 5 日 (教育学部、情報学部)
	4月 8 日 (人文社会科学部、理学部、農学部)
	4月 9 日 (教育学部、工学部)
前学期 授業開始	4月 10 日
前学期 補講日 (浜松キャンパス)	7月 20 日
	(静岡キャンパス) 7月 21 日
前学期 授業終了	7月 29 日
前学期試験	7月 30 日～8月 5 日
TOEIC 試験 (「英語演習 I」試験)	8月 1 日
後学期 授業開始	10月 1 日
静大祭 (浜松キャンパス)	11月 8 日～11月 10 日
	(静岡キャンパス) 11月 15 日～11月 17 日
後学期 補講日 (浜松キャンパス)	2月 1 日
	(静岡キャンパス) 2月 2 日
後学期 授業終了	2月 3 日
後学期 試験	2月 4 日～2月 10 日
卒業式 (浜松キャンパス)	3月 22 日
	(静岡キャンパス) 3月 23 日
学年終了	3月 31 日

休業日:

国民の祝日に関する法律に規定する休日

日曜日

土曜日 (人文社会科学部の夜間主コースを除く。)

春季休業 3月 25 日から 3月 31 日まで

夏季休業 前学期試験終了の翌日から 9月 15 日まで

冬季休業 12月 26 日から翌年 1月 5 日まで

上記のうち、春季・夏季・冬季の休業の日程は臨時に変更することがあります。  
その他、必要が生じたときは、その都度臨時に休業日を定めて掲示で知らせます。

前期	月	火	水	木	金
	16	16	16	16	16

後期	月	火	水	木	金
	16	16	16	16	16

※1 上記表の回数は、試験中の回数を各期に1回含む  
※2 人文社会科学部夜間主コースのみ、土曜日にも授業を行います

# 目 次

静岡大学のビジョン	1
学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針	2
新入生の皆さんへ	3
1 学期と授業時間	4
2 事務手続き	4
3 履修科目について	5
4 全学教育科目の性格と科目区分	5
5 全学教育科目の学部別授業科目一覧	6
6 各学部の教養科目必要単位数・履修年次表	18
7 全学教育科目の性格と履修方法	24
8 授業時間割枠	27
9 履修の手続き	29
履修決定について	32
教室で抽選する授業の履修手続き	33
10 英語、初修外国語、健康体育、日本語・日本事情の履修について	34
11 学外での授業の履修について	41
12 学務情報システムの利用について	42
13 情報基盤センターの利用について	60
14 本学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する申合せ	61
15 静岡大学全学教育科目規程	62
16 教養科目の成績評価に関わる指針	64
17 入学前の既修得単位等の取り扱い等について	65
18 編入学等の単位の取り扱いについて	66
19 科目等履修生等の取り扱いについて	66
20 留学生科目に関する申合せ	67
21 静岡キャンパス共通教育棟校舎配置図	68
22 教務課掲示板の配置図等	69
23 浜松キャンパス校舎配置図・教室名	70
行事予定	裏表紙の裏面



# 自由啓発・未来創成

質の高い教育と創造的な研究を推進し、社会と連携し、ともに歩む存在感のある大学

## 静岡大学のビジョン「自由啓発・未来創成」

---

わたしたちの大学は、旧制の静岡高等学校、静岡第一師範学校、静岡第二師範学校、静岡青年師範学校、浜松工業専門学校（旧浜松高等工業学校）の統合（1949年）と静岡県立農科大学の移管（1951年）とともに、こんにちの「静岡大学」としてのスタートを切りました。これらの前身校では、「自由啓発」、「自由闊達」など、学生の主体性に重きをおく教育方針がとられました。なかでも浜松高等工業学校では、「自由啓発」という理念のもと、「生徒の素質、学力、性能等を十分に考慮し」つつ、「学徒を最も自由な境遇に置き、その個性を十分に尊重し、その天賦の才能を遺憾なく伸展せしめる」教育が行われました。

この理念は、教育だけでなく、なにごとにもとらわれない自由な発想に基づく独創的な研究、相互啓発的な社会との協働に不可欠です。この認識のもと、静岡大学は、教育・研究・社会連携の柱として、「自由啓発」を発展的に継承していきます。

「自由啓発」をもとに、静岡大学の学生・教職員は、平和で幸福な「未来創成」をめざして、教育、研究、社会連携に積極的に取り組んでいきます。地域社会の一員として、地域の自然と文化に対する敬愛の念をもち、社会からよせられる期待に応えます。さらに地球規模の環境問題、食料問題、貧困、戦争、伝統的な共同体や価値観の崩壊などの大きな課題に果敢にチャレンジします。このようにして、学生・教職員、静岡大学にかかわるすべての人々が、互いに信をおき、学びあい、それぞれの多様性を尊びながら、「自由啓発・未来創成」の理念を広く共有し、平和かつ幸福な未来を創り上げていきます。

わたしたちの大学は、「自由啓発・未来創成」の理念のもと、多様な背景・価値観を認めあい、気高い使命感と探究心に溢れた人間性をはぐくみ、知の創成・継承・活用を推進し、人類の平和・幸福と地球の未来のため、地域社会とともに発展していきます。

## 使 命

---

### 教 育

地球の未来に責任をもち、国際的感覚を備え、高い専門性を有し、失敗を恐れないチャレンジ精神にあふれ、豊かな人間性を有する教養人を目指します。

### 研 究

世界の平和と人類の幸福を根底から支える諸科学を目指し、創造性あふれる学術研究を行います。

### 社会連携

地域社会とともに歩み、社会が直面する諸問題に真剣に取り組み、文化と科学の発信基地として、社会に貢献します。

## 静岡大学 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

静岡大学は、教職員、学生の主体性の尊重と相互啓発の上に立ち、平和で幸福な未来社会の建設への貢献をめざす「自由啓発・未来創成」のビジョンを掲げ、教育・研究に携わっている。このようなビジョンのもとで、国際感覚と高い専門性を有し、チャレンジ精神にあふれ、豊かな人間性を有する教養人を育成することが本学の教育目標であり、下記に示すそれぞれの資質・能力を身につけていることを学位授与の条件とする。

- 1 専門分野についての基本的な知識を習得し、これを社会の具体的文脈のなかで活用することができる。
- 2 外国語を含む言語運用能力、情報処理、キャリア形成等の基本的スキルを身につけている。
- 3 多様性を認め、幅広い視点から物事を考え、行動することのできる国際感覚と深い教養を身につけている。
- 4 主体的に問題を発見し、自らのリーダーシップと責任のもとで、様々な立場の人々と協同して、その解決にあたることができる。

<各学部の「学位授与の方針」については省略>

## 静岡大学 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

静岡大学は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、下記の方針に従って教育課程を編成し実施する。

- 1 全学教育科目においては、基礎的な学習方法、外国語の運用能力、情報処理、キャリア形成等の基本的スキルを身につけるために「基軸教育科目」を、国際感覚と教養を身につけるために「現代教養科目」を、理系の基礎的知識習得や教職等の資格取得のために「理系基礎科目」及び「教職等資格科目」をおく。
- 2 専門科目においては、各学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、それぞれの専門分野についての主体的な学びを促し、基本的知識・方法を身につけるための系統的な授業配置を行う。
- 3 自ら問題を発見し、その解決のために他者と協同して行動できるようにするため、学生参加型授業、フィールドワーク、実験・実習等の授業を配置すると共に、地域社会との交流や国際交流の機会を積極的に提供する。
- 4 すべての授業について十分な学習時間を確保すると共に、客観的な評価基準に基づく成績評価を行う。

<各学部の「教育課程編成・実施の方針」については省略>

## 新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これからいよいよ皆さんの静大生としての新しい生活がはじまります。勉学に課外活動に、また友人同士の楽しい語らいにと、ぜひ有意義な4年間をすごしてください。

このうち静岡大学での勉学について言うと、皆さんが学ぶ授業科目のおよそ3分の1は、すべての学部の学生を対象とする「全学教育科目」と呼ばれる科目群です。この科目群は、それぞれの専門的な学問分野について学ぶ「学部専門科目」とは異なって、(1) 大学生として学んで行く上で共通に身につけておく必要のある基礎的な知識・スキルや教養についての科目、(2) 教員資格等の取得に必要な学部横断的な科目、(3) 理工系学部学科で共通に求められる基礎的な知識についての科目から成っており、その大半を1、2年次に履修することになります。

この「履修案内」はこれらの「全学教育科目」全体の構成と履修方法を説明するものですので、入学時に行われる履修ガイダンスを参考にしながら、注意深く読み、自分が履修しなければならない科目は何なのかをよく確認してください。

大学の授業は、高校までの授業よりも選択の幅が広く、「全学教育科目」のうちでも特に「現代教養科目」に分類されている科目群については、一定の制限はありますが、多くの科目のなかから自分の興味関心に基づいて選択することができ、また他学部の学生たちと肩を並べて勉強する機会を得ることもできます。個々の授業内容を紹介するシラバスを一覧すれば、それぞれの授業のねらいやどのようなテーマが扱われるのかを事前に知ることができるようになっていますので、ここで大学生活に不可欠な「正しく選ぶ」訓練をしてみてください。

大学での4年間で豊かなものにするためには、多くの授業のなかから自分にとって必要なものを「選ぶ」、サークルや友人やゼミを「選ぶ」、そして最終的には社会のなかで自分が進むべき道を「選ぶ」ことが皆さんには求められます。そしてこのように「正しく選ぶ」ためには、自分がいったい何者であり、何をしようとしているのかを知ることが必要です。しかしただ自分の内面を見つめていても、「本当の自分」を発見することはできません。これからの様々な出会いを大切にし、そのなかで「よく考えて選ぶ」営みを何度も繰り返すことによって、皆さんは少しずつ自分の真の姿を見つけ出し、いくことができるようになるでしょう。

大学教育センター長 石井 潔

# 1 学期と授業時間

## (1) 学年、学期

学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日で終わる1年間をいいます。この1年間は前学期(前期)と後学期(後期)の二つの学期に分けられています。

前学期：4月1日～9月30日

後学期：10月1日～3月31日

通年：前学期と後学期にわたる授業について用います。

半期授業：前学期または後学期の半年間で完了する授業科目です。

この授業の成績は、その学期の終わりに評価・判定されます。

通年授業：通年にわたる授業です。

この授業の成績は後学期の終わりに評価・判定されます。

## (2) 授業時間

1・2 時限	8時40分～10時10分
3・4 時限	10時20分～11時50分
5・6 時限	12時45分～14時15分
7・8 時限	14時25分～15時55分
9・10 時限	16時05分～17時35分
11・12 時限	17時50分～19時20分(夜間主)
13・14 時限	19時30分～21時00分(夜間主)

たとえば1・2時限の90分の授業を「1コマ」(ヒトコマ)といいます。

# 2 事務手続き

全学教育科目の授業に関する事務手続きは下記窓口で行います。また、履修に関する教務的な連絡は、静岡キャンパスは教務課教務係、浜松キャンパスは工学部教務係(教養教育)掲示板で行います。(掲示の場所はp.69からp.70参照)。掲示に常に注意して、見落としのないようにしてください。

[静岡キャンパス]

教務課教務係 【共通教育A棟2階】

[浜松キャンパス]

工学部教務係(教養教育) 【工学部7号館1階】

[受付時間]

8時30分～12時30分、13時30分～17時15分



### 3 履修科目について

本学における4年間のカリキュラムには、全学部の学生を対象に開設されている「全学教育科目」と各学部・学科（課程）の「学部専門科目」があります。これらの授業は、1年次から4年次まで、学期ごとに履修するように配分されています。

この冊子では、「全学教育科目」の履修について説明しますので、各学部・学科（課程）の「学部専門科目」の履修については、各学部の「学生便覧」と「時間割」等を参照してください。なお、「履修する」とは授業を受講して単位を取得することを意味します。

### 4 全学教育科目の性格と科目区分

「全学教育科目」は、静岡大学全体に共通する教育理念・目標に基づいて教養教育と専門教育の有機的連関をもった四年一貫教育をねらいとして設定されています。大別すると、教養科目と専門科目に区分されます。

教養科目には、在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための基軸教育科目、各専門分野と有機的に関連させて幅広い教養を習得するための現代教養科目、留学生のための留学生科目、および教員免許等の資格取得に必要な教職等資格科目が設定されています。専門科目には、専門科目の中で全学に共通する教職等資格科目、および理系学部に通じる理系基礎科目が設定されています。

必修科目と選択科目等の種別があり、学部・学科（課程）ごとに履修の方法・ルールは異なりますので、本冊子の「全学教育科目の学部別授業科目一覧」(p. 6 から p. 17)、「各学部の教養科目必要単位数・履修年次表」(p. 18 から p. 23) および各学部の「学生便覧」等を見て、間違いのないように履修計画をたててください。

全学教育科目の区分（工学部秋季入学生教育プログラム NIFEE を除く。）

大区分	科目区分	小科目区分
教養科目	基軸教育科目	新入生セミナー
		情報処理
		英語
		初修外国語
		健康体育
		フィールドワーク
		キャリア形成科目
	現代教養科目	個別分野科目
		学際科目
		留学生科目
留學生科目	日本語、日本事情	
教職等資格科目	教職教養科目	
専門科目	教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ
		教職専門科目Ⅱ
		学芸員科目
	理系基礎科目	

## 5 全学教育科目の学部別授業科目一覧

### 「必修・選択の別」の用語説明

「必修」:卒業するために必ず履修しなければならない科目

「選択必修」:複数の授業科目のなかから定められている単位数を必ず履修しなければならない科目

「選択」:必ず履修しなければならない科目ではないが、卒業に必要な履修単位に含まれる科目

### (1)人文社会科学部

(教養科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備考	
基軸教育科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	選択	演習	1	学部指定履修科目(※欄外の「注意1」を参照)	
	情報処理	*情報処理	2	選択	演習	1	学部指定履修科目	
	英語	*英語コミュニケーションⅠ		1	必修	演習	1	
		英語演習Ⅰ		1	選択必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。)
		基礎英語演習		1	選択必修	演習	1	
		*英語コミュニケーションⅡ		1	選択	演習	1～2	英語コミュニケーションⅠの単位修得者が履修できる。
		英語演習Ⅱ		1	選択	演習	1～2	TOEIC400点以上取得者が履修できる。
		英語ライティングⅠ		1	選択	演習	2	
		英語リーディングⅠ		1	選択	演習	1～2	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		英語演習Ⅲ		2	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅡ		2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)
		英語リーディングⅡ		2	選択	演習	1～2	
		*英語ディスカッション		2	選択	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)
		*英語インテンシブA		2	選択	演習	1	
		*英語インテンシブB		2	選択	演習	2	クラスごとに履修条件の設定がある。
		アカデミックイングリッシュⅠ		2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅡ		2	選択	演習	2～3	クラスごとに履修条件の設定がある。
		アカデミックイングリッシュⅢ		2	選択	演習	2～3	
	ビジネスイングリッシュ		2	選択	演習	3	クラスごとに履修条件の設定がある。	
	*英語海外研修A		2	選択	演習	1～4		
	*英語海外研修B		2	選択	演習	1～4	左記の選択科目のうち2単位を学部指定履修科目とする。(TOEIC400点未満の者は基礎英語演習の履修をもって替えることができる。)	
	英語(夜間主コース)	英語演習		1	必修	演習		1
		*英語コミュニケーションA		1	必修	演習	1	TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)
		*英語コミュニケーションB		1	選択	演習	2	
		*英語海外研修A		2	選択	演習	1～4	クラスごとに履修条件の設定がある。
		*英語海外研修B		2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ		1	必修	演習	1	初修外国語Ⅰ及びⅡを学部指定履修科目とする。初修外国語入門Ⅰ及びⅡと併せて同一言語を履修すること。異なる言語を追加して履修する場合は、別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
初修外国語入門Ⅱ			1	必修	演習	1		
初修外国語Ⅰ			2	選択	演習	1		
初修外国語Ⅱ			2	選択	演習	1		
初修外国語Ⅲ			2	選択	演習	2		
初修外国語Ⅳ			2	選択	演習	2		
初修外国語(夜間主コース)		初修外国語a		1	必修	演習	1	3科目とも同一言語を履修すること。異なる言語を追加して履修する場合は、別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語b		1	必修	演習	1	
		初修外国語c		2	必修	演習	2	
健康体育		*健康体育Ⅰ		1	選択	講義・実技	1～4	
	*健康体育Ⅱ		1	選択	講義・実技	1～4		
キャリア形成科目	キャリアデザイン		2	選択	講義	1		
現代教養科目	個別分野科目							
	〈人文・社会分野〉	*日本国憲法	2	選択	講義	2	夜間主コースに「日本国憲法」は開設しない。	
	〈自然科学分野〉	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	〈自然科学分野〉の科目から3科目6単位必修	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3		
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3		
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3		
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3		
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3		
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3		
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3		
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3		
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3		
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3		

	学際科目 テーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。		選択必修	講義又は演習	2～3	1科目2単位必修 夜間主コースは1年次から履修できる。
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	2	選択	講義	1～2		
教職等資格科目	教職教養科目	*教育の原理	2	選択	講義	2～4	教員免許状取得希望者のみ履修できる。
		*発達と学習	2	選択	講義	2～4	
		*教育と社会	2	選択	講義	2～4	

注意

1. 学部指定履修科目は、学部毎に標準的なカリキュラムとして必ず履修することが指定されている科目（もしくは区分単位数）である。
2. \*印の科目は、教員免許状取得希望学生が必ず履修しなければならない科目である。（英語については、必修の英語コミュニケーションⅠ（夜間主コースは英語コミュニケーションA）のほかに\*印の英語の授業科目から1単位以上（\*印、合計2単位以上）履修すること。）
3. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目に関する申合せ」を参照すること。
4. 夜間主コース学生の「昼間コース開講科目」履修については、別に定める。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備考
教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ	教職入門Ⅰ	1		演習	2	
		教職入門Ⅱ	1		演習	3	
		教育課程の意義及び編成の方法	1		講義	3～4	
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）	1		講義	3～4	
		道徳指導論	2		講義	2～3	
		特別活動論	2		講義	3	
		生徒指導（進路指導の理論及び方法を含む）	2		講義	3	
		教育相談	2		講義	3	
		教職専門科目Ⅱ	国語科教育法Ⅱ	2		講義	3
	国語科教育法Ⅲ		2		講義	3	
	国語科教育法Ⅳ		2		講義	3	
	社会科教育法Ⅱ		2		講義	3	
	社会科教育法Ⅲ(地歴)		2		講義	3	
	社会科教育法Ⅳ(公民)		2		講義	3	
	英語科教育法Ⅱ		2		講義	3	
	英語科教育法Ⅲ		2		講義	3	
	英語科教育法Ⅳ		2		講義	3	
	ドイツ語教育法Ⅱ		2		講義	3	
	ドイツ語教育法Ⅲ		2		講義	3	
	ドイツ語教育法Ⅳ		2		講義	3	
	フランス語教育法Ⅱ		2		講義	3	
	フランス語教育法Ⅲ		2		講義	3	
	フランス語教育法Ⅳ	2		講義	3		
学芸員科目	生涯学習概論	2		講義	1		
	博物館概論	2		講義	1		
	博物館経営論	2		講義	2		
	博物館資料論Ⅰ	1		講義	2		
	博物館資料論Ⅱ	1		講義	2		
	博物館展示論	2		講義	2		
	博物館情報・メディア論	2		講義	2		
	博物館資料保存論	2		講義	3		
	博物館教育論	2		講義	3		
	教育実習事前・事後指導	1		演習	2～4		
教職実践演習(中・高)	2		演習	4			

## (2)教育学部

### (教養科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備考	
基軸教育科目	新生セミナー	新生セミナー	2	選択	演習	1	学部指定履修科目(※欄外の「注意3」を参照)	
	情報処理	*情報処理	2	必修	演習	1		
	英語	*英語コミュニケーションⅠ	1	必修	演習	1		
		英語演習Ⅰ	1	選択必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。)	
		基礎英語演習	1	選択必修	演習	1		
		*英語コミュニケーションⅡ	1	選択必修/選択	演習	1～2	英語コミュニケーションⅠの単位修得者が履修できる。	
		英語演習Ⅱ	1	選択	演習	1～2		
		英語ライティングⅠ	1	選択	演習	2	TOEIC400点以上取得者が履修できる。	
		英語リーディングⅠ	1	選択	演習	1～2		
		英語演習Ⅲ	2	選択	演習	1～2		
		英語ライティングⅡ	2	選択	演習	2	TOEIC500点以上取得者が履修できる。	
		英語リーディングⅡ	2	選択	演習	1～2		
		*英語ディスカッション	2	選択必修/選択	演習	1～2		
		*英語インテンシブA	2	選択必修/選択	演習	1	TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)	
		*英語インテンシブB	2	選択必修/選択	演習	2		
		アカデミックイングリッシュⅠ	2	選択	演習	2～3		
	アカデミックイングリッシュⅡ	2	選択	演習	2～3	クラスごとに履修条件の設定がある。		
	アカデミックイングリッシュⅢ	2	選択	演習	2～3			
	ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3			
	*英語海外研修A	2	選択必修/選択	演習	1～4			
	*英語海外研修B	2	選択必修/選択	演習	1～4			
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	必修	演習	1	初修外国語入門Ⅱは学部指定履修科目とし、初修外国語入門Ⅰと併せて同一言語を履修すること。異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。	
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1		
初修外国語Ⅰ		2	選択	演習	2			
初修外国語Ⅱ		2	選択	演習	2			
初修外国語Ⅲ		2	選択	演習	3			
初修外国語Ⅳ		2	選択	演習	3			
健康体育	*健康体育Ⅰ	1	必修	講義・実技	1～4			
	*健康体育Ⅱ	1	必修	講義・実技	1～4			
	スポーツⅠ	1	選択	実技	2～4			
	スポーツⅡ	1	選択	実技	2～4			
キャリア形成科目	キャリアデザイン	2	選択	講義	1			
現代教養科目	個別分野科目 (人文・社会分野)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	2科目4単位必修 教員養成課程の学生及び三課程の教員免許状取得希望学生は、日本国憲法を含めて2科目4単位を履修すること。 日本国憲法は教員養成課程の学生は1年次に履修、三課程の学生は2年次に履修すること。	
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3		
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3		
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	1～2		
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3		
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3		
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3		
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3		
		心理学	2	選択必修	講義	1～3		
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3		
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3		
		〈自然科学分野〉	数学の世界	2	選択必修	講義		1～3
			数理の構造	2	選択必修	講義		1～3
			物理の世界	2	選択必修	講義		1～3
	自然と物理		2	選択必修	講義	1～3		
	化学の世界		2	選択必修	講義	1～3		
	生活の科学		2	選択必修	講義	1～3		
	生命科学		2	選択必修	講義	1～3		
	生物と環境		2	選択必修	講義	1～3		
	地球科学		2	選択必修	講義	1～3		
	進化と地球環境		2	選択必修	講義	1～3		
	科学と技術		2	選択必修	講義	1～3		
	学際科目 テーマ 「国際・地域」 「環境・自然」		各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。		選択必修	講義又は演習	2～3	1科目2単位必修

	「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」						
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
教職等資格科目	教職教養科目	*教育の原理	2	必修/選択	講義	1	三課程は選択、教員免許状取得希望者のみ履修できる。
		*発達と学習	2	必修/選択	講義	1	
		*教育と社会	2	必修/選択	講義	2	

注意

1. 学校教育教員養成課程を「教員養成課程」という。
2. 学校教育教員養成課程以外の生涯教育課程、総合科学教育課程及び芸術文化課程を「三課程」という。
3. 学部指定履修科目は、学部毎に標準的なカリキュラムとして必ず履修することが指定されている科目(もしくは区分単位数)である。
4. \*印の科目は、教員養成課程の学生及び三課程の教員免許状取得希望者が、必ず履修しなければならない科目である。(英語については、必修の英語コミュニケーションⅠのほか、\*印の科目から1単位以上(\*印、合計2単位以上)履修すること。)
5. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目に関する申合せ」を参照すること。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備考
教職等資格科目	学芸員科目	生涯学習概論Ⅰ	2		講義	1	
		博物館概論	2		講義	1	
		博物館経営論	2		講義	2	
		博物館資料論Ⅰ	1		講義	2	
		博物館資料論Ⅱ	1		講義	2	
		博物館展示論	2		講義	2	
		博物館情報・メディア論	2		講義	2	
		博物館資料保存論	2		講義	3	
		博物館教育論	2		講義	3	

注意 学芸員資格を取得できる課程(専攻・専修)

学校教育教員養成課程(教育実践学専修、国語教育専修、音楽教育専修、美術教育専修)

総合科学教育課程(総合科学専攻)、芸術文化課程(音楽文化専攻、美術・デザイン専攻、書文化専攻)

### (3)情報学部

(教養科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備考		
基軸教育科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	選択	演習	1	学部指定履修科目(※欄外の「注意1」を参照)		
	情報処理	*情報処理	2	選択	演習	1			
	英語	*英語コミュニケーションⅠ	英語演習Ⅰ	1	必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。)	
		基礎英語演習		1	選択必修	演習	1		
		*英語コミュニケーションⅡ		1	選択	演習	1		英語コミュニケーションⅠの単位修得者が履修できる。
		英語演習Ⅱ		1	選択	演習	1～2		TOEIC400点以上取得者が履修できる。
		英語ライティングⅠ		1	選択	演習	2		
		英語リーディングⅠ		1	選択	演習	1～2		TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		英語演習Ⅲ		2	選択	演習	1～2		
		英語ライティングⅡ		2	選択	演習	2		
		英語リーディングⅡ		2	選択	演習	1～2		
		*英語ディスカッション		2	選択	演習	1～2		TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)
		*英語インテンシブA		2	選択	演習	1		
		*英語インテンシブB		2	選択	演習	2		
		アカデミックイングリッシュⅠ		2	選択	演習	2～3		
		アカデミックイングリッシュⅡ		2	選択	演習	2～3		クラスごとに履修条件の設定がある。
	アカデミックイングリッシュⅢ		2	選択	演習	2～3			
	ビジネスイングリッシュ		2	選択	演習	3			
	*英語海外研修A		2	選択	演習	1～4			
	*英語海外研修B		2	選択	演習	1～4			
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ		1	必修	演習	1	同一言語を履修すること。異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。	
		初修外国語入門Ⅱ		1	必修	演習	1		
		初修外国語Ⅰ		2	選択	演習	1		
初修外国語Ⅱ			2	選択	演習	1			
初修外国語Ⅲ			2	選択	演習	2			
初修外国語Ⅳ			2	選択	演習	2			
健康体育	*健康体育Ⅰ		1	選択	講義・実技	1～3			
	*健康体育Ⅱ		1	選択	講義・実技	1～3			
	スポーツⅠ		1	選択	実技	2～3			
	スポーツⅡ		1	選択	実技	2～3			
キャリア形成科目	キャリアデザイン		2	選択	講義	1			
現代教養科目	個別分野科目 (人文・社会分野)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	2分野からそれぞれ2科目合わせて4科目8単位必修		
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3			
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3			
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	1～3			
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3			
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3			
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3			
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3			
		心理学	2	選択必修	講義	1～3			
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3			
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3			
		(自然科学分野)	数学の世界	2	選択必修	講義		1～3	
			数理の構造	2	選択必修	講義		1～3	
			物理の世界	2	選択必修	講義		1～3	
	自然と物理		2	選択必修	講義	1～3			
	化学の世界		2	選択必修	講義	1～3			
	生活の科学		2	選択必修	講義	1～3			
	生命科学		2	選択必修	講義	1～3			
	生物と環境		2	選択必修	講義	1～3			
	地球科学		2	選択必修	講義	1～3			
	進化と地球環境		2	選択必修	講義	1～3			
	科学と技術	2	選択必修	講義	1～3				
	学際科目 テーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。		2	選択必修	講義又は演習	2～3	2科目4単位必修	



	「生命・人間(文化・芸術を含む)」						
	「科学・技術」						
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	2	選択	講義	1～2		
教職等資格科目	教職教養科目	*教育の原理	2	選択	講義	2～4	教員免許状取得希望者のみ履修できる。
		*発達と学習	2	選択	講義	2～4	
		*教育と社会	2	選択	講義	2～4	

注意

1. 学部指定履修科目は、学部毎に標準的なカリキュラムとして必ず履修することが指定されている科目(もしくは区分単位数)である。
2. \*印の科目は、教員免許状取得希望学生が必ず履修しなければならない科目である。(英語については、必修の英語コミュニケーションⅠのほかに\*印の英語の授業科目から1単位以上(\*印、合計2単位以上)履修すること。)
3. 学部横断セミナーとして開講する工学部のフィールドワーク科目「ものづくり・理科教育支援」の単位修得をした場合は、学際科目として認定する。
4. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目に関する申合せ」を参照すること。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備考
理系基礎科目		線形代数学Ⅰ	2	科CS必修、科IS選必	講義	1	科CSは情報科学科CS 科ISは情報科学科IS 社ISは情報社会学科IS
		線形代数学Ⅱ	2	科CS必修、科IS選必	講義	1	
		微分積分学Ⅰ	2	科CS必修、科IS選必	講義	1	
		微分積分学Ⅱ	2	科CS選必、科IS選必	講義	1	
		離散数学	2	科CS必修、科IS選必、社IS選必	講義	2	
		情報代数及び符号理論	2	科CS選必、科IS選必	講義	2	
教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ	教職入門Ⅰ	1		演習	2	
		教職入門Ⅱ	1		演習	3	
		教育課程の意義と方法	1		講義	3	
		教育の方法及び技術	1		講義	3	
		特別活動論	2		講義	3～4	
		生徒指導(進路指導の理論及び方法を含む)	2		講義	3	
		教育相談	2		講義	3	
	教職専門科目Ⅱ	情報科教育法Ⅰ	2		講義	3	
		情報科教育法Ⅱ	2		講義	3	
		教育実習事前・事後指導	1		演習	3～4	
		教職実践演習(中・高)	2		演習	4	
	学芸員科目	博物館概論	2		講義	1	
		生涯学習概論	2		講義	2	
博物館経営論		2		講義	1～2		
博物館資料論		2		講義	1～2		
博物館資料保存論		2		講義	1～2		
博物館展示論		2		講義	1～2		
博物館教育論		2		講義	1～2		
博物館情報・メディア論		2		講義	1～2		

#### (4)理学部

(教養科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備考			
基軸教育科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	選択	演習	1	学部指定履修科目(※欄外の「注意1」を参照)			
	情報処理	*情報処理	2	選択	演習	1	学部指定履修科目			
	英語	*英語コミュニケーションⅠ	1	必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。)			
		英語演習Ⅰ	1	選択必修	演習	1				
		基礎英語演習	1	選択必修	演習	1				
		*英語コミュニケーションⅡ	1	選択	演習	1～2		英語コミュニケーションⅠの単位修得者が履修できる。		
		英語演習Ⅱ	1	選択	演習	1～2		TOEIC400点以上取得者が履修できる。		
		英語ライティングⅠ	1	選択	演習	2				
		英語リーディングⅠ	1	選択	演習	1～2		TOEIC500点以上取得者が履修できる。		
		英語演習Ⅲ	2	選択	演習	1～2				
		英語ライティングⅡ	2	選択	演習	2				
		英語リーディングⅡ	2	選択	演習	1～2				
		*英語ディスカッション	2	選択	演習	1～2		TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)		
		*英語インテンシブA	2	選択	演習	1				
		*英語インテンシブB	2	選択	演習	2		クラスごとに履修条件の設定がある。		
		アカデミックイングリッシュⅠ	2	選択	演習	2～3				
	アカデミックイングリッシュⅡ	2	選択	演習	2～3					
	アカデミックイングリッシュⅢ	2	選択	演習	2～3					
	ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3					
	*英語海外研修A	2	選択	演習	1～4					
	*英語海外研修B	2	選択	演習	1～4					
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	必修	演習	1	同一言語を履修すること。異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。			
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1				
初修外国語Ⅰ		2	選択	演習	2					
初修外国語Ⅱ		2	選択	演習	2					
初修外国語Ⅲ		2	選択	演習	3					
初修外国語Ⅳ		2	選択	演習	3					
健康体育	*健康体育Ⅰ	1	選択	講義・実技	1～4	学部指定履修科目				
	*健康体育Ⅱ	1	選択	講義・実技	1～4					
キャリア形成科目	キャリアデザイン	2	選択	講義	1					
現代教養科目	個別分野科目 (人文・社会分野)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	4科目8単位必修			
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3				
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3				
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	2				
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3				
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3				
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3				
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3				
		心理学	2	選択必修	講義	1～3				
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3				
	芸術論	2	選択必修	講義	1～3					
	学際科目 テーマ	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。	選択必修	講義又は演習	2～3	2科目4単位必修				
	「国際・地域」									
	「環境・自然」									
	「現代社会(情報・福祉を含む)」									
	「生命・人間(文化・芸術を含む)」									
	「科学・技術」									
	留学生科目		日本語	日本語Ⅰ	2		選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
				日本語Ⅱ	2		選択	演習	1～2	
日本語Ⅲ				2	選択		演習	1～2		
日本語Ⅳ		2		選択	演習	1～2				
日本語Ⅴ		2		選択	演習	1～2				
日本語Ⅵ		2		選択	演習	1～2				
日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2					



教職等資格科目	教職教養科目	*教育の原理	2	選択	講義	2～4	教員免許状取得希望者のみ履修できる。
		*発達と学習	2	選択	講義	2～4	
		*教育と社会	2	選択	講義	2～4	

注意

1. 学部指定履修科目は、学部毎に標準的なカリキュラムとして必ず履修することが指定されている科目（もしくは区分単位数）である。
2. \*印の科目は、教員免許状取得希望学生が必ず履修しなければならない科目である。（英語については、必修の英語コミュニケーションⅠのほかに\*印の英語の授業科目から1単位以上（\*印、合計2単位以上）履修すること。）
3. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目に関する申合せ」を参照すること。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備考
理系基礎科目		数学Ⅰ(微分積分A)	2	PCBG必修	講義	1	Mは数学科 Pは物理学科 Cは化学科 Bは生物科学科 Gは地球科学科
		数学Ⅱ(線形代数A)	2	PCBG必修	講義	1	
		数学Ⅲ(微分積分B)	2	PC必修、 BG選択	講義	1	
		数学Ⅳ(線形代数B)	2	PC必修、 BG選択	講義	2	
		数学Ⅴ(統計)	2	PCBG選択	講義	2	
		数学Ⅵ(微分積分C)	2	PCBG選択	講義	2	
		物理入門	2	MCBG選択	講義	1	自由科目
		物理学Ⅰ(力学)	2	MC選択、 BG必修	講義	1	
		物理学Ⅱ(電磁気)	2	MCBG選択	講義	2	
		物理学Ⅲ(現代物理)	2	MCBG選択	講義	2	
		化学Ⅰ(物理化学A)	2	MP選択、 BG必修	講義	1	
		化学Ⅱ(物理化学B)	2	MPBG選択	講義	1	
		化学Ⅲ(有機化学)	2	MPBG選択	講義	2	
		生物学Ⅰ(基礎A)	2	MPC選択、 G必修	講義	1	
		生物学Ⅱ(基礎B)	2	MPCG選択	講義	1	
		地球科学Ⅰ(基礎A)	2	MPC選択、 B必修	講義	1	
		地球科学Ⅱ(基礎B)	2	MPCB選択	講義	1	
		物理学実験	1	P必修、 CBG選択	実験	2	
		化学実験	1	CB必修、 PG選択	実験	1	
		生物学実験	1	B必修、 PCG選択	実験	2	
地学実験	1	G必修、 PCB選択	実験	2			
機器分析科学入門Ⅰ	1	PCBG選択	講義	2			
機器分析科学入門Ⅱ	1	PCBG選択	講義	2			
教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ	教職入門Ⅰ	1		演習	2	
		教職入門Ⅱ	1		演習	3	
		教育課程の意義及び編成の方法	1		講義	3	
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)	1		講義	3	
		道徳指導論	2		講義	2～3	
		特別活動論	2		講義	3	
		生徒指導(進路指導の理論及び方法を含む)	2		講義	3	
		教育相談	2		講義	3	
		数学科教育法Ⅱ	2		講義	2～3	
		数学科教育法Ⅲ	2		講義	2～3	
		数学科教育法Ⅳ	2		講義	2～3	
		理科教育法Ⅱ	2		講義	2～3	
		理科教育法Ⅲ	2		講義	2～3	
	理科教育法Ⅳ	2		講義	2～3		
	情報科教育法Ⅰ	2		講義	2～3		
	情報科教育法Ⅱ	2		講義	2～3		
	教育実習事前・事後指導	1		演習	3～4		
	教職実践演習(中・高)	2		演習	4		
	学芸員科目		生涯学習概論	2		講義	1
			博物館概論	2		講義	1
			博物館経営論	2		講義	2
			博物館資料論Ⅰ	1		講義	2
			博物館資料論Ⅱ	1		講義	2
			博物館展示論	2		講義	2
			博物館情報・メディア論	2		講義	2
			博物館資料保存論	2		講義	3
			博物館教育論	2		講義	3

## (5)工学部(NIFEEを除く)

(教養科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備考	
基軸教育科目	新入生セミナー	新入生セミナー	1	必修	演習	1		
	情報処理	*情報処理	2	必修	演習	1		
	英語	*英語コミュニケーションⅠ	1	必修	演習	1		
		英語演習Ⅰ	1	選択必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。)	
		基礎英語演習	1	選択必修	演習	1		
		*英語コミュニケーションⅡ	1	選択	演習	1	「英語コミュニケーションⅠ」の単位取得者が履修できる。	
		英語演習Ⅱ	1	選択	演習	1～2	TOEIC400点以上取得者が履修できる。	
		英語ライティングⅠ	1	選択	演習	1～2		
		英語リーディングⅠ	1	選択	演習	1～2		
		英語演習Ⅲ	2	選択	演習	1～2		
		英語ライティングⅡ	2	選択	演習	2	TOEIC500点以上取得者が履修できる。	
		英語リーディングⅡ	2	選択	演習	1～2		
		*英語ディスカッション	2	選択	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)	
		*英語インテンシブA	2	選択	演習	1		
		*英語インテンシブB	2	選択	演習	2		
		アカデミックイングリッシュⅠ	2	必修	演習	3		
	アカデミックイングリッシュⅡ	2	選択	演習	2～3	クラスごとに履修条件の設定がある。		
	アカデミックイングリッシュⅢ	2	選択	演習	2～3			
	ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3			
	*英語海外研修A	2	選択	演習	1～4			
	*英語海外研修B	2	選択	演習	1～4			
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	選択	演習	2	※「世界のことばと文化」の単位修得者が履修できる。	
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	2		
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	3	同一言語を履修すること。異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	3		
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	4		
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	4		
健康体育	*健康体育Ⅰ	1	選択	講義・実技	3～4	3～4		
	*健康体育Ⅱ	1	選択	講義・実技	3～4			
フィールドワーク	工学基礎実習	1	必修	実習	1			
	創造教育実習	1	必修	実習	1			
	ものづくり・理科教育支援	2	選択	演習	2～3	学部横断セミナーとして開講する。		
キャリア形成科目	キャリアデザイン	1	必修	講義	2			
現代教養科目	個別分野科目 (人文・社会分野)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	(人文・社会分野)の科目から4科目8単位必修8単位を超える単位は分野を問わず4単位まで卒業単位として認める。  左記の授業科目一覧に記載のない授業科目は履修できない。	
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3		
		世界のことばと文化	2	選択必修	講義	1		
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3		
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	1～3		
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3		
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3		
		国際社会と文化	2	選択必修	講義	1～3		
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3		
		心理学	2	選択必修	講義	1～3		
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3		
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3		
		(自然科学分野)	数理の構造	2	選択	講義		1～3
			自然と物理	2	選択	講義		1～3
	生活の科学		2	選択	講義	1～3		
	生命科学		2	選択	講義	1～3		
	生物と環境		2	選択	講義	1～3		
	地球科学		2	選択	講義	1～3		
	進化と地球環境		2	選択	講義	1～3		
	科学と技術	2	選択	講義	1～3			
	学際科目 テーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。		選択必修	講義又は演習	2～3	1科目2単位必修。2単位を超える単位は6単位まで卒業単位として認める。	

	「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」						
留学生科目	日本語	日本語 I	2	選択	演習	1～2	日本語 I、II、IIIは履修することが望ましい。
		日本語 II	2	選択	演習	1～2	
		日本語 III	2	選択	演習	1～2	
		日本語 IV	2	選択	演習	1～2	
		日本語 V	2	選択	演習	1～2	
		日本語 VI	2	選択	演習	1～3	
日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2		
教職資格科目	教職教養科目	*教育の原理	2	選択	講義	2～4	教員免許状取得希望者のみ履修できる。
		*発達と学習	2	選択	講義	2～4	

注意

1. \*印の科目は、教員免許状取得希望学生が必ず履修しなければならない科目である。(英語については、必修の英語コミュニケーション I のほかに\*印の英語の授業科目から1単位以上(\*印、合計2単位以上)履修すること。)

2. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目に関する申合せ」を参照すること。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備考
理系基礎科目		微分積分学 I	2	MEDCS必修	講義	1	Mは機械工学科 Eは電気電子工学科 Dは電子物質科学科 Cは化学バイオ工学科 Sは数理システム工学科
		微分積分学 II および演習	3	MEDCS必修	講義・演習	1	
		線形代数学 I および演習	3	MEDCS必修	講義・演習	1	
		線形代数学 II	2	MEDCS必修	講義	1	
		力学・波動 I	2	MEDCS必修	講義	1	
		力学・波動 II	2	MEDS必修	講義	1	
		電磁気学	2	MC(環境)必修 S選択	講義	2	
		現代物理	2	MED必修	講義	2	
		熱統計力学	2	EC(環境)必修 S選択	講義	2	
		工学基礎化学 I	2	MEDCS必修	講義	1	
		工学基礎化学 II	2	MEDCS必修	講義	1	
		基礎無機化学	2	DC必修	講義	1	
		生物学 I	2	C(バイオ)必修 S選択	講義	2	
		生物学 II	2	C(バイオ)必修 S選択	講義	2	
物理・化学実験	1	MEDC(環境) S必修	実験	2			
化学・生物実験	1	C(バイオ)必修	実験	2			
教職等資格科目	教職専門科目 I	教職入門 I	1		演習	2	
		教職入門 II	1		演習	3	
		教育と社会	2		講義	2～4	
		教育課程の意義と方法	1		講義	3～4	
		教育の方法及び技術	1		講義	3～4	
		特別活動論	2		講義	3～4	
		生徒指導(進路指導の理論及び方法を含む)	2		講義	3～4	
		教育相談	2		講義	3～4	
		教職専門科目 II	工業科教育法 I	2		講義	
	工業科教育法 II	2		講義	3～4		
	数学科教育法 III	2		講義	2～3		
	数学科教育法 IV	2		講義	2～3		
	教育実習事前・事後指導	1		演習	3～4		
	教職実践演習(中・高)	2		演習	4		

## (6)農学部

(教養科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備考		
基軸教育科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	選択	演習	1	学部指定履修科目(※欄外の「注意1」を参照)		
	情報処理	*情報処理	2	選択	演習	1	学部指定履修科目		
	英語	*英語コミュニケーションⅠ		1	必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。)	
		英語演習Ⅰ		1	選択必修	演習	1		
		基礎英語演習		1	選択必修	演習	1		
		*英語コミュニケーションⅡ		1	選択	演習	1～2		英語コミュニケーションⅠの単位修得者が履修できる。
		英語演習Ⅱ		1	選択	演習	1～2		TOEIC400点以上取得者が履修できる。
		英語ライティングⅠ		1	選択	演習	2		
		英語リーディングⅠ		1	選択	演習	1～2		TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		英語演習Ⅲ		2	選択	演習	1～2		
		英語ライティングⅡ		2	選択	演習	2		TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)
		英語リーディングⅡ		2	選択	演習	1～2		
		*英語ディスカッション		2	選択	演習	1～2		クラスごとに履修条件の設定がある。
		*英語インテンシブA		2	選択	演習	1		
		*英語インテンシブB		2	選択	演習	2		
		アカデミックイングリッシュⅠ		2	選択	演習	2～3		
	アカデミックイングリッシュⅡ		2	選択	演習	2～3			
	アカデミックイングリッシュⅢ		2	選択	演習	2～3			
	ビジネスイングリッシュ		2	選択	演習	3			
	*英語海外研修A		2	選択	演習	1～4			
	*英語海外研修B		2	選択	演習	1～4			
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ		1	必修	演習	1	同一言語を履修すること。異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。	
		初修外国語入門Ⅱ		1	選択	演習	1		
		初修外国語Ⅰ		2	選択	演習	2		
		初修外国語Ⅱ		2	選択	演習	2		
		初修外国語Ⅲ		2	選択	演習	3		
		初修外国語Ⅳ		2	選択	演習	3		
健康体育	*健康体育Ⅰ		1	選択	講義・実技	1～4			
	*健康体育Ⅱ		1	選択	講義・実技	1～4			
	スポーツⅠ		1	選択	実技	2～4			
	スポーツⅡ		1	選択	実技	2～4			
フィールドワーク	フィールド科学概論		2	選択	講義	1	学部指定履修科目		
	フィールド科学演習		1	選択	演習	1			
キャリア形成科目	キャリアデザイン		2	選択	講義	1			
現代教養科目	個別分野科目 (人文・社会分野)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	4科目8単位必修 ただし、(人文・社会分野)の科目から3科目6単位以上履修すること。		
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3			
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3			
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	2			
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3			
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3			
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3			
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3			
		心理学	2	選択必修	講義	1～3			
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3			
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3			
		(自然科学分野)	数理の構造	2	選択必修	講義		1～3	
			自然と物理	2	選択必修	講義		1～3	
			地球科学	2	選択必修	講義		1～3	
	進化と地球環境		2	選択必修	講義	1～3			
	科学と技術		2	選択必修	講義	1～3			
	学際科目 テーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」		各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。		選択必修	講義又は演習	2～3	2科目4単位必修	
	留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。	
			日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2		
			日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2		

		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
教職等資格科目	教職教養科目	*教育の原理	2	選択	講義	2～4	教員免許状取得希望者のみ履修できる。
		*発達と学習	2	選択	講義	2～4	

注意

1. 学部指定履修科目は、学部毎に標準的なカリキュラムとして必ず履修することが指定されている科目（もしくは区分単位数）である。
2. \*印の科目は、教員免許状取得希望学生が必ず履修しなければならない科目である。（英語については、必修の英語コミュニケーションⅠのほかに\*印の英語の授業科目から1単位以上（\*印、合計2単位以上）履修すること。）
3. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目に関する申合せ」を参照すること。

（専門科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備考
理系基礎科目		数学概論A	2	BFC必修	講義	1	Bは共生バイオサイエンス学科 Fは環境森林科学科 Cは応用生物化学科
		数学概論B	2	BFC必修	講義	1	
		物理学概論A	2	BFC必修	講義	1	
		物理学概論B	2	BFC必修	講義	1	
		化学概論A	2	BFC必修	講義	1	
		化学概論B	2	BFC必修	講義	1	
		生物学概論A	2	BFC必修	講義	1	
		生物学概論B	2	BFC必修	講義	1	
		物理学実験	1	BC選択、F必修	実験	2	
		化学実験	1	BFC必修	実験	1	
教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ	教育と社会	2		講義	2～4	
		教育課程の意義及び編成の方法	1		講義	3～4	
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）	1		講義	3～4	
		生徒指導（進路指導の理論及び方法を含む）	2		講義	3	
	教職専門科目Ⅱ	理科教育法Ⅲ	2		講義	2～3	
		理科教育法Ⅳ	2		講義	2～3	
		農業科教育法Ⅰ	2		講義	1～2	
		農業科教育法Ⅱ	2		講義	1～2	
		教育実習事前・事後指導	1		演習	3～4	
		教職実践演習（中・高）	2		演習	4	

## 6 各学部の教養科目必要単位数・履修年次表

### (1)人文社会科学部

科目区分			学科区分				備 考	
			社会学科	言語文化 学科	法学科	経済学科		
教 養 科 目	必	基 軸 教 育	英語	2	2	2	2	
			初修外国語	2	2	2	2	
		現 代 教 養	個別分野科目	6	6	6	6	
			学際科目	2	2	2	2	
	修	小 計		12	12	12	12	
		選	基 軸 教 育 科 目  (学 部 指 定 履 修 科 目)	英語	2	2	2	
	初修外国語			4	4	4	4	
	新入生セミナー			2	2	2	2	
	情報処理			2	2	2	2	
	択	その他		6	6	6	6	
		小 計		16	16	16	16	
	合 計			28	28	28	28	
	科 専 門 門	合 計			76	76	70	
科 自 由	他学部・他学科専門科目を含む専門科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			20	20	26	12	(専門科目の詳細は学部規則を参照)
合 計(卒業単位数)				124	124	124	124	

### 人文社会科学部夜間主コース

科目区分			学科区分		備 考	
			法学科	経済学科		
教 養 科 目	必	基 軸 教 育	英語	2	2	
			初修外国語	4	4	
		現 代 教 養	個別分野科目	6	6	
			学際科目	2	2	
	修	小 計		14	14	
		選	基 軸 教 育 科 目  (学 部 指 定 履 修 科 目)	新入生セミナー	2	
	情報処理			2	2	
	その他			6	6	
	小 計			10	10	
	合 計			24	24	
科 専 門 門	合 計			72	66	(専門科目の詳細は学部規則を参照)
科 自 由	法学科・経済学科で開講する専門科目			28	34	(専門科目の詳細は学部規則を参照)
合 計(卒業単位数)				124	124	

## (2)教育学部

科目区分		学科区分		学校教育教員養成課程	生涯教育課程	総合科学教育課程	芸術文化課程	備考
教養科目	必	基軸教育科目	英語	3	2	2	2	
			初修外国語	1	1	1	1	
			情報処理	2	2	2	2	
			健康体育	2	2	2	2	
	修	現代教養科目	個別分野科目	4	4	4	4	
			学際科目	2	2	2	2	
	資格科目等	教職科目	教職教養科目	6	0	0	0	
			小計	20	13	13	13	
			合計	23	20	20	20	
	選択	(学部基軸指定履修科目)	英語	0	1	1	1	
			初修外国語	1	1	1	1	
			新入生セミナー	2	2	2	2	
			その他	0	3	3	3	
		小計	3	7	7	7		
合計	23	20	20	20				
専門科目	合計	90	88	88	88	(専門科目の詳細は学部規則を参照)		
自由科目	教育学部の専門科目、及び教養科目で各々の必要単位数を超えた単位数	11	16	16	16			
合計(卒業単位数)		124	124	124	124			

### (3)情報学部

科目区分			学科区分		情報科学科	情報社会学科	備 考
			情報科学科	情報社会学科			
教 養 科 目	必	基 軸 教 育	英語	2	2		
			初修外国語	2	2		
	修	現 代 教 養	個別分野科目	8	8		
			学際科目	4	4		
			小 計	16	16		
	選  択	(学 部 指 定 履 修 科 目)	英語	2	2		
			新入生セミナー	2	2		
		その他		12	12		
		小 計		16	16		
	合 計			32	32		
専 門 科 目	必 修 科 目			86~92	86~92	その他(2)の科目を卒業単位とする場合は、事前に所定の手続きをすること。 (専門科目の詳細は学部規則を参照)	
	選 択 科 目						
	その他	(1) 他大学、他学部、他学科、他プログラムの専門科目 (2) 教養科目の語学系科目で必要単位数を超えた科目	0~6	0~6			
合 計(卒業単位数)			124	124			



(4)理学部

科目区分		学科区分					備考			
		数学科	物理学科	化学科	生物科学科	地球科学科				
教 養 科 目	必 修	基 礎 教 育 科 目	英語	2	2	2	2	2		
			初修外国語	1	1	1	1	1		
		現 代 教 養 科 目	個別分野科目	8	8	8	8	8		
			学際科目	4	4	4	4	4		
		小 計		15	15	15	15	15		
	選 択	(学 部 指 定 履 修 科 目)	英語	2	2	2	2	2		
			新入生セミナー	2	2	2	2	2		
			情報処理	2	2	2	2	2		
			健康体育	2	2	2	2	2		
		その他		4	4	4	4	4		
		小 計		12	12	12	12	12		
	合 計		27	27	27	27	27			
	専 門 科 目	合 計		82	85	80	83	86		(専門科目の詳細は 学部規則を参照)
	自 由 科 目	他学部・他学科専門科目を含む専 門科目、及び教養科目で必要単位 数を超えた単位数		15	12	17	14	11		
合 計(卒業単位数)			124	124	124	124	124			

(5)工学部 (NIFEEを除く)

科目区分		学科区分	機械工学科	電気電子工学科	電子物質科学科	化学バイオ工学科	数理システム工学科	備 考	
教 養 科 目	必	基軸教育科目	英語	4	4	4	4	4	
			新入生セミナー	1	1	1	1	1	
			情報処理	2	2	2	2	2	
			フィールドワーク	2	2	2	2	2	
			キャリア形成科目	1	1	1	1	1	
	修	現代教養科目	個別分野科目	8	8	8	8	8	
			学際科目	2	2	2	2	2	
			小 計	20	20	20	20	20	
	選 択	小 計	6	6	6	6	6	機械工学科の履修条件は#0-1、電子物質科学科と化学バイオ工学科の履修条件は#0-2、電気電子工学科と数理システム工学科の履修条件は#0-3のとおり。	
	合 計	26	26	26	26	26			
専 門 科 目	合 計	98	98	98	100	96	(専門科目の詳細は学部規則を参照)		
自 由 科 目	教養科目、学部専門科目で必要単位数を超えた単位数	2	2	2	0	4			
合 計(卒業単位数)			126	126	126	126	126		

#0-1 個別分野科目(人文・社会分野)1科目および外国語(英語あるいは初修外国語)2科目を含むこと。ただし、外国語は英語2科目を強く勧める。

#0-2 個別の人文・社会科目、英語、初修外国語から少なくとも2科目以上を含むこと。ただし、英語2科目を強く勧める。

#0-3 英語2科目を含むことを強く勧める。

**(6)農学部**

科目区分		学科区分		共生バイオサイエンス学科	応用生物化学科	環境森林科学科	備 考	
教 養 科 目	必 修	基軸教育科目	英語	2	2	2		
			初修外国語	1	1	1		
		現代教養科目	個別分野科目	8	8	8		
			学際科目	4	4	4		
		小 計		15	15	15		
	選 択	(学部基軸指定履修科目)	英語	1	1	1		
			新入生セミナー	2	2	2		
			情報処理	2	2	2		
			フィールドワーク	3	3	3		
		扱	その他		8	8		8
			小 計		16	16		16
	合 計		31	31	31			
	専 門 科 目	合 計		85	85	85		(専門科目の詳細は学部規則を参照)
	自 由 科 目	他学部・他学科専門科目を含む専門科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数		8	8	8		
合 計(卒業単位数)		124	124	124				

## 7 全学教育科目の性格と履修方法

### <教養科目>

#### (1) 基軸教育科目

この科目群に設定されている科目は、在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための科目です。この科目群の内、「新入生セミナー」、「情報処理」、「英語」、「初修外国語」、「健康体育」は、1年次から（ただし、工学部生は初修外国語2年次から、健康体育3年次から）履修するように開講クラスを用意します。

##### ① 新入生セミナー

大学生活と大学における学問・研究の基本的な進め方を体得することを目的として、1年次前期に1クラス15人を目安として開講します。大学への導入・転換を目的としていますので特別な許可のない限り、1年次前期のみの履修となります。2年次以降は、必修科目となっている工学部生以外は履修できませんので注意してください。

なお、工学部「新入生セミナー」は他学科クラスでの履修（再履修を含む。）はできません。

##### ② 情報処理

高度に情報化された社会の中で自立的で正確な対応ができる情報処理の能力を体得させることを目的とします。情報機器数に応じてクラスサイズを決定します。

##### ③ 英語

英語のコミュニケーション能力と専門的な学習に必要な基礎力を養うため、必修科目に加えて、英語力のレベルと学習意欲の多様性に対応した多彩な選択科目を用意しています。履修方法は、p.34を参照してください。

##### ④ 初修外国語

幅広い国際性と外国語コミュニケーション能力を備えるため、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、現代韓国語のコースを開設します。1クラスの人数は40名を目安として開講します。履修の方法はp.40を参照してください。

##### ⑤ 健康体育

運動と健康などとの関係をより深く理解し、健康な生活を送る方法を身につけるとともに、豊かな生活を送るためのスポーツ技術を修得するため、1クラス40名を目安として工学部以外の学生には1年次から開講します。「健康体育」は、学部によっては選択科目ですが、健康な大学生活への導入と基本スキルの獲得を目的としていますので、1年次開講の「健康体育」は特殊な事情がない限り履修することを薦めます。

履修の方法はp.40を参照してください。

##### ⑥ フィールドワーク

農学部では、講義形式の座学にとらわれず、地域をキャンパスに見立てて実社会の様々な人々との連携・交流を重視する科目として1年次に開講します。

工学部では、ものづくりの基礎を実習することを主目的として1～3年次に開講します。1クラスの履修人数は授業形態により異なりますので、特に定めません。

##### ⑦ キャリア形成科目

職業意識や人生設計への問題意識を喚起するための講義科目です。4年間の学生生活をどのように過ごしていくのか、将来を見据えながら考えていく科目です。

工学部は2年次必修となっています。他学科クラスでの履修（再履修含む。）はできません。

## (2) 現代教養科目

広い意味の教養（問題発見・解決能力・視野の広さ・思考の柔軟性・問題意識の高さ等）を身につけるための科目群です。1 クラス 120 人を目安（履修希望者が多数の場合にはこの限りではない）として開講します。

### ① 個別分野科目

各専門分野と有機的に関連させて幅広い教養の習得をめざし、自らの専門を超えた学問分野への問題関心を喚起するための科目で、1～3 年次（農学部生は 2～3 年次）に履修します。文系学生は理系科目、理系学生は文系科目を重点的に履修する「たすきがけ・クロス履修」のシステムが設定されています。

教育学部生は、文系・理系科目をバランス良く履修することが望ましいです。

工学部生にのみ 1 年次後期に開講される「世界のことばと文化」は、2 年次からの初修外国語履修の準備科目（履修条件）として開講します。初修外国語の履修を予定せずに、単純に個別分野科目としても履修できます。

なお、人文社会科学部生が人文・社会分野の「日本国憲法」を履修した場合、教養科目の選択科目として扱われます。

### ② 学際科目

広く現代が提起している諸課題への問題意識を明確にし、広い視野から柔軟な思考力にもとづいて問題を発見・分析できる能力を育てるとともに、分野横断かつ学際的・複合領域にわたる知識をもとに、総合的に問題を解決しうる資質を身につけるための科目で、2～3 年次に履修します。5 つのテーマ群が設定され、各年度の初めに授業科目が発表されます。

なお、演習形式の小人数クラスも開講されます。

## (3) 留学生科目

### ① 日本語・日本事情

外国人留学生（国費外国人留学生、外国政府派遣留学生、秋季入学生教育プログラム（NIFEE）学生及び私費外国人特別選抜入学生）のために開講される科目です。日本語の単位は英語、初修外国語、現代教養科目のいずれかに、日本事情の単位は現代教養科目に振り替えることができます。1 クラスの人数は当該年度の留学生等の数により異なります。「各学部の教養科目必要単位数・履修年次表」（p. 18 から p. 23）と p. 41 を参照してください。

## (4) 教職等資格科目

### ① 教職教養科目

教員免許を取得するための科目で、教育学部学校教員養成課程の学生は 1・2 年次必修です。同課程以外の学生は、免許の取得を希望する人だけが履修できます。教育学部新三課程の学生は 1 年次から、それ以外の学生は 2 年次から履修できます。1 クラスの人数は特に定めません。

## ＜専門科目＞

### (1) 教職等資格科目

教職等の資格を取るための科目で、全学共通の科目だけが全学教育科目として開講されます。これらの科目は、資格取得を希望する者が履修できます。1 クラスの人数は特に定めません。

それぞれの資格を取得するためには、この他にも学部専門で開講される科目の履修が必要ですので、各学部の「学生便覧」と「時間割」を参照してください。

#### ① 教職専門科目Ⅰ、教職専門科目Ⅱ

教員免許を取得するための科目で、教育学部学校教員養成課程の学生に対しては学部専門科目として1年次から開講されます。「教育学部学生便覧」と「教育学部時間割」を参照してください。教育学部以外の免許取得希望者は2年次から履修できます。

#### ② 学芸員科目

学芸員の資格を取得するための科目で、資格取得希望者は1年次から履修できます。

### (2) 理系基礎科目

理系専門教育のための基礎知識と理系分野における教養を習得するための科目です。この目的から情（情報科学科）・理・工・農学部の学生を対象に1～2年次で開講されます。

詳細は各学部の「学生便覧」を参照してください。

## ＜自由科目＞

上記の＜教養科目＞について各学部で履修すべき最低単位数（必修及び選択の合計）が定められていますが、＜自由科目＞単位数の枠内であれば、この最低単位数を越えて履修した＜教養科目＞を卒業単位数のなかに算入することができます。例えば人文社会科学部社会学科について言えば、外国語科目を中心的に履修したい場合、学科で定めた20単位すべてをこれにあてることも可能です（＜自由科目＞の単位数は各学部・学科によって異なる。情報学部については外国語科目に限り、＜専門科目＞の「その他」として定められた単位数内で卒業単位に参入可能）。また外国語科目に限らず、この＜自由科目＞の単位数を現代教養科目等、他の＜教養科目＞にあてることもできます。

なお、この＜自由単位＞の単位数を所属学部及び他学部等の専門科目にあてることも可能であり、＜教養科目＞よりも専門科目を中心に履修することを希望する場合には、そのような履修計画を立てるようにして下さい（＜自由科目＞に算入できる専門科目については、一部制限があるので、各学部の便覧を参照）。

## 8 授業時間割枠

各学部の時間割枠は次ページからの表のとおりです。学部ごとに指定された時間割枠で履修することになっています。原則として指定された時間割枠以外では履修できませんが、3年次以降は、授業の定員に対して履修学生数に余裕がある場合、履修を認められます。

# 平成25年度授業時間割枠

## 人文社会科学部 1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○△日本語	○情報処理(社言経)	○△初修外国語		○セミナー(経)
火		○△英語	○△健康体育(社言法)	○セミナー(言法) ○△健康体育(経)	
水	○キャリア形成科目 △個別分野科目		○△初修外国語	○セミナー(社法) ○情報処理(社言経)	△キャリア形成科目
木			○△日本語 △学芸員科目 △基礎英語演習(補習)		
金	○情報処理(法)		○△英語	○情報処理(社言)	○学芸員科目

## 教育学部 1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○△日本語	○△初修外国語	○△健康体育(教員) ○セミナー(国際理解)	○セミナー ○情報処理	
火	○△英語		○セミナー ○情報処理	○セミナー ○情報処理	
水	○キャリア形成科目 △個別分野科目	○△教職教養科目	○△健康体育(三課程)	○キャリア形成科目	△キャリア形成科目
木			○△日本語 △学芸員科目 △基礎英語演習(補習)		
金		○△英語		○学芸員科目	

## 理学部 1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○△日本語	○△初修外国語	○情報処理(MCB)	△理系基礎科目	
火	○セミナー(C) ○△理系基礎科目	○△英語	○セミナー(P) △理系基礎科目	△理系基礎科目	
水	○セミナー(MB) ○情報処理(PG) △個別分野科目	○△健康体育(PBG)	○セミナー(G) ○△健康体育(MC) △理系基礎科目	○キャリア形成科目 △理系基礎科目	△キャリア形成科目
木	○△理系基礎科目	○△理系基礎科目	○△日本語 △学芸員科目 △基礎英語演習(補習)		
金	○△理系基礎科目	○△理系基礎科目	○△英語		○学芸員科目

## 農学部 1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○△日本語	○△初修外国語	○△フィールドワーク ○△理系基礎科目	○△フィールドワーク ○△理系基礎科目	
火	○△英語	○セミナー	○理系基礎科目	○理系基礎科目	
水	○キャリア形成科目 △個別分野科目	○△健康体育	○△理系基礎科目	○理系基礎科目 ○キャリア形成科目	△キャリア形成科目
木	○情報処理 △理系基礎科目	○△理系基礎科目	○△日本語 △基礎英語演習(補習)		
金	○△理系基礎科目	○△英語	○理系基礎科目	○理系基礎科目	

## 情報学部 1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○学芸員科目 ○日本語	△学芸員科目			
火	○△学芸員科目 △情報処理 △キャリア形成科目	○セミナー △個別分野科目 △日本語	○△初修外国語	○△英語	
水		○△英語	○△健康体育(科)	○△健康体育(社) ○△理系基礎科目	○日本事情
木				○△日本語 △基礎英語演習(補習)	
金		△理系基礎科目	○△初修外国語	○セミナー	○理系基礎科目

## 工学部 1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○日本語 ○セミナー(E) △理系基礎科目	○情報処理(M) ○△理系基礎科目	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク ○△英語	○△英語
火	○セミナー(C) ○情報処理(C)	○セミナー(MDCS) ○情報処理(C) △個別分野科目 △日本語	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク ○△英語	○△英語
水	○△英語	○△英語	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	○日本事情
木	○セミナー(E) ○情報処理(D) ○△理系基礎科目	○情報処理(E) ○△理系基礎科目	○セミナー(E)	○△日本語 △基礎英語演習(補習)	
金		○情報処理(MS) △理系基礎科目	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	



## 9 履修の手続き

### (1) 履修計画の立て方

- (a) まず、p. 27 から p. 28 の「授業時間割枠」で、開講されている全学教育科目の種類を確認します。
- (b) 選択必修と選択科目については、選択する授業を以下の手順に従って決める必要があります。
- 1) 別冊子『2013（平成25年度）全学教育科目 授業時間割』を使って、それぞれの時間にどのような科目を履修できるかを確認します。  
注) 対象となっている学部・学年・前学期・後学期などに注意します。
  - 2) 別冊子『2013（平成25年度）SYLLABUS 全学教育科目 前学期授業内容の紹介』を使って、第一回授業の前までに第一希望、第二希望、・・・と希望授業を絞り込んでおきます。  
注1) 選択単位は開講されているすべての科目を履修できるとは限りません。  
注2) 『2013（平成25年度）SYLLABUS 全学教育科目 前学期授業内容の紹介』は学務情報システムで閲覧できるほか、大学のホームページから検索・閲覧できます。  
なお、後学期授業については学務情報システムで検索してください。
- (c) 授業を履修する際は、その他に以下のような注意事項があります。
- 1) 授業科目名が同じものを2科目以上修得しても、卒業必要単位としては1科目しか認められません。また、合格済の科目は再度履修することができず、当初の評価を上げることはできません。
  - 2) 同一年度・学期に同一の授業科目を2クラス以上履修登録することはできません。

### (2) 履修の手続き

必修、選択必修、選択科目に限らず、履修する科目が決まったら、以下の一連の手続きを行うことによって履修手続きが終了し、成績評価を受けることができます。

#### (a) 履修クラス決定の手続き

- 1) 履修手続きの方法は科目によって異なります。「授業開始前にクラス指定されるもの」と「第一回授業時に決定されるもの」とがあります。  
(→ p. 32 「履修決定について」)
- 2) 「授業開始前にクラス指定されるもの」に関しては、指定されたクラスを掲示板(→ p. 68 から 69) や学務情報システム授業時間割などで確認しておきます。
- 3) 「第一回授業時に決定されるもの」に関しては、履修希望者が多数の場合には抽選が行われます。抽選方法は教室方式と体育館方式の2通りがあります。  
(→ p. 33 「教室で抽選する授業の履修手続き」)
- 4) 「第一回授業時に決定されるもの」に関しては、第一回授業時に「抽選カード」を教員に提出してください。(→ p. 33 「教室で抽選する授業の履修手続き」)

#### (b) 学務情報システムへの履修登録

- 1) 履修が認められた全学教育科目と学部専門科目を指定された日までに、学務情報システムに履修登録してください。すでに登録済みの科目もありますが、間違いがないか確認してください。(→ p. 42 「学務情報システムの利用について」)
- 2) 履修登録する科目の単位数の合計は各学期24単位を越えることはできません(通年科目は2分の1の単位数とする)／集中講義及び各学部で指定する教職等資格科目を除く)。ただし、直前学期のGPA(後述)の値が2.0以上の場合は26単位まで、また2.5以上の場合は28単位まで登録できます。

教育学部学校教員養成課程は、それぞれ2単位多い26単位、28単位、30単位まで登録可能です。

- 3) 履修登録に誤りがあると成績評価が得られないことになります。

\*なお、後学期（後期）からは、静岡キャンパスの「個別分野科目」「学際科目」「キャリアデザイン」、クラス指定のない「英語」については、希望科目の学務情報システムでの抽選登録を実施します。日程等の詳細は前学期終了後に掲示します。

(注意) 浜松キャンパスでの実施は検討中です。実施となった場合、9月下旬にガイダンスを行います。

### (c) 試験

- 1) 「定期試験」・・・前学期・後学期の終わりには「定期試験」の期間が設けられます。  
注1) 「定期試験」の時間割は、通常授業の時間帯に行われるとは限りません。  
試験期間の時間割は、1週間前までに掲示されます。  
注2) 出席状況が悪い場合には、受験資格を失う場合もあります。
- 2) 「追試験」・・・次の理由のいずれかに該当して受験ができなかった場合には、試験日から1週間以内に「追試験」を静岡キャンパスは教務課教務係、浜松キャンパスは工学部教務係（教養教育）に願い出ることができます。追試験の許可者および日程等は掲示等で通知します。  
理由1) 病気または怪我  
(試験当日の容態についての診断書等が必要。事前に上記係に連絡すること。)  
理由2) 忌引 1親等・2親等の親族の死亡日から1週間以内の場合  
(会葬の礼状等、事由を証明できる資料が必要)  
理由3) その他、緊急な事由として大学教育センターが認めたもの  
(事由を証明できるものが必要)
- 3) 「再試験」・・・「定期試験」または「追試験」を受験したが不合格（「不可」）になった場合、担当教員の判断により「再試験」を行う場合があります。再試験の許可者および日程等は掲示で通知します。ただし、再試験に合格した場合の成績はすべて「可」となります。

### \* 試験における注意事項

- 注1) 試験の際は、学生証を机の上に提示し、携帯電話は電源を切りカバンへ入れる。  
注2) 試験において不正行為が行われた場合は、当該学期の授業科目の履修をすべて無効とするなど規則によって処分されます。  
注3) 単位レポート等においてWebサイトからのコピー・ペーストや、他人の作成した著作物の丸写しや無断引用及びレポートの代筆等の不正行為が行われた場合も、当該学期の授業科目の履修をすべて無効とするなど規則によって処分されます。

### (d) 成績通知表の確認

- 1) 学務情報システムの成績情報参照画面から出力できます。  
成績の評価は、「秀」「優」「良」「可」「不可」で表記され、「秀」「優」「良」「可」を合格とし、履修単位として認められます。(秀：100～90点、優：90点未満～80点、良：80点未満～70点、可：70点未満～60点、不可：60点未満)
- 2) 「不可」となった科目については不合格とします。これは、「成績通知表」によって学生に通知しますが、「成績原簿」には記載されません。

3) 不合格の場合は、同一授業科目（あるいは同じ科目区分の別科目）を再度履修（「再履修」）できます。

\* 「再履修」とは、一度履修したものの「不可」となった科目（あるいは同じ科目区分の別科目）を次の年次（又は学期）で履修することを言います。

#### (e) GPAについて

GPA (Grade Point Average) は、各科目のGP (Grade Point) を単位数に応じて加重平均した値で、在学中の成績評価の平均値を表します。静岡大学のGPAは以下の計算式で算出されます。

$$GP = (\text{成績評点 (数字)} - 55) \div 10$$

(但し、0.5未満の場合は0.0とする。100点満点)

$$GPA = \sum (GP \times \text{当該科目の単位数}) \div \text{履修総単位数}$$

成績証明書には、各科目のGPは小数第2位まで、GPAは小数第3位まで表示されます。表示上は端数が切り捨てられる形になりますが、GPの小数第3位以下も含めた上でGPAは算出されます。また、キャップ制の基準単位計算などの際は、特段の明記がない限り端数が四捨五入されることはありません

なお、成績評価が「合」「否」「認定」の科目はGP算定の対象としません。また、各学部のカリキュラムで卒業要件科目でない科目もGP算定の対象としません。

### (3) 成績評価に関する疑義に対する手続き

履修科目の成績評価に関して疑義がある場合は、成績通知表受領後、速やか(4年生後学期は2月末日まで)に、静岡キャンパスは共通教育A棟2階の教務課教務係、浜松キャンパスは工学部7号館1階の工学部教務係(教養教育)に申し出てください。

### (4) 授業における出欠席の取り扱い

授業は出席することが原則ですが、病気入院(新型インフルエンザ罹患等による出席停止含む)、忌引きのほか、正規の授業として行われる実習等で欠席する場合や、学生担当副学長が特に認めた課外活動(コンサートや試合)での欠席は、決められた手続きをとれば欠席扱いとしません。ただし、追加実験や補講への出席を免除するものではありません。手続きについては所属学部の学務(教務)係に問い合わせてください。

一方、就職活動等での欠席の対応は、授業担当教員の判断に委ねられています。授業シラバス等で明示されている許容欠席回数を確認し、必要なら担当教員にも相談して卒業要件に注意して判断してください。

### (5) 休講について

担当教員が病気や出張等の理由で授業が休講となる場合がありますが、事前に分かっているときには、学務情報システムに登録してあるメールアドレス宛に休講のお知らせが行きます。当日になって急に休講となるケースでは、掲示板でお知らせします。

しかし、上記いずれの連絡もなく、授業開始時間を30分以上過ぎても担当教員が教室に現れないときは、その旨を静岡キャンパスは教務課教務係、浜松キャンパスは工学部教務係(教養教育)までお知らせください。休講とするかどうか判断します。

## 【平成25年度 履修決定について】

	静岡キャンパス	
	履修クラスの決定方法	決定時期
新入生セミナー	指定	授業開始前(4月8日(月)14:00)
情報処理	指定	授業開始前(4月8日(月)14:00)
英語コミュニケーションⅠ	指定 〔後学期はweb抽選〕	授業開始前(4月8日(月)14:00) web抽選後(第一回授業前)
英語演習Ⅰ	指定	授業開始前(4月8日(月)14:00)
基礎英語演習	担当教員の判断による	第一回授業時
英語 選択科目	web抽選 ※集中講義については別途定める	web抽選後(第一回授業前)
初修外国語 必修科目	指定	授業開始前(4月8日(月)14:00)
初修外国語 選択科目	担当教員の判断による	第一回授業時
健康体育	抽選(優先シール可)	第一回授業時
フィールドワーク科目	科目ごとに異なる	
キャリア形成科目	前期:教室抽選(優先シール可) 後期:Web抽選	第一回授業時
個別分野科目	web抽選	web抽選後(第一回授業前)
学際科目	web抽選(一部科目は担当教員の判断による)	web抽選後(第一回授業前)
日本語・日本事情	担当教員の判断による	第一回授業時
教職教養科目	担当教員の判断による	第一回授業時
教職専門科目Ⅰ・Ⅱ	担当教員の判断による	第一回授業時
学芸員科目	担当教員の判断による	第一回授業時
理系基礎科目	指定	学部によって異なる

	浜松キャンパス	
	履修クラスの決定方法	決定時期
新入生セミナー	指定	授業開始前
情報処理	情報学部:教室抽選(優先シール可) 工学部:指定	第一回授業時 授業開始前
英語コミュニケーションⅠ	指定 〔後学期は担当教員の判断による〕	授業開始前(4月8日(月)14:00) 第一回授業時
英語演習Ⅰ	指定	授業開始前(4月8日(月)14:00)
基礎英語演習	担当教員の判断による	第一回授業時
英語 選択科目	教室抽選(優先シール可) ※集中講義については別途定める	第一回授業時
初修外国語 必修科目	指定	授業開始前(4月8日(月)14:00)
初修外国語 選択科目	担当教員の判断による (工学部(受講要件を満たした者に限る)は初修外国語入門Ⅰ・Ⅱのみ指定。)	第一回授業時
健康体育	抽選(優先シール可)	第一回授業時
フィールドワーク科目	科目ごとに異なる	
キャリア形成科目	情報学部:教室抽選(優先シール可) 工学部:指定	第一回授業時 授業開始前
個別分野科目	教室抽選(優先シール可)	第一回授業時
学際科目	教室抽選(優先シール可)	第一回授業時
日本語・日本事情	担当教員の判断による	第一回授業時
教職教養科目	担当教員の判断による	第一回授業時
教職専門科目Ⅰ・Ⅱ	担当教員の判断による	第一回授業時
学芸員科目	担当教員の判断による	第一回授業時
理系基礎科目	指定	学部によって異なる

- ・いずれの科目も「学務情報システム」上で履修情報の登録をすることによって、履修登録が完結します。
- ・履修クラスが指定される科目のクラス分けは静岡では共通教育B棟掲示板、浜松では教養教育掲示板に掲示します。
- ・教室で抽選を行う科目の前半の欠員状況は、静岡では共通教育A棟2階掲示板、浜松では総合棟玄関に掲示します。
- ・教室で抽選を行う科目の第一回授業終了後の最終的な欠員状況は、静岡では共通教育L棟掲示板、浜松では教養教育掲示板(工学部8号館南側)に掲示します。
- ・web抽選に漏れ履修登録ができなかった場合、履修登録期間中に定員に余裕がある科目に履修登録をすることができます。

## 【教室で抽選する授業の履修手続き】

時間（目安）	手 順
授業開始前	履修希望の授業を予め選んで、授業が行われる教室を確認しておく。
開始後 15 分 までに	希望する教室に行き、授業のガイダンスを聞く。 各教室の入口には、その科目の履修定員が示してあり、履修希望者が多数の場合には抽選が行われることになる。
開始後 50 分 までに	第 1 希望の教室を決定し教員の指示に従う。（抽選カードを提出する。） ① 希望者が定員に達していない場合は、全員の履修が認められる。  ② 希望者が定員を超えた場合は、 <b>注 1</b> による抽選を行う。 （抽選に外れた学生の抽選カードは返される。）
開始後 70 分 までに	②により履修が認められた学生は教室に残って授業を最後まで継続する。  ②により抽選に外れた学生はすみやかに退出し、第 2 希望の教室に行ってその授業のガイダンスを聞く。 （各教室の欠員状況の一覧は、指定場所（ <b>注 2</b> ）に掲示する。）
授業終了 までに	第 2 希望の教室を決定し、教員の指示に従う。（抽選カードを提出する。） ③ 履修希望者がなお定員に達しない場合は、全員の履修が認められる。  ④ 定員を超えた場合は、抽選が行われる。抽選方法は 1 回目と同じ。 2 回目の抽選にも外れた学生は、時間内であれば欠員のある別の教室に行き、履修手続きをする。
授業終了後	履修する授業が決まらなかった学生は、欠員のある授業科目一覧が指定の場所（ <b>注 3</b> ）に掲示されるので、その指示に従って 2 回目の授業開始時まで、履修手続きを行う。

**注 1**：抽選方法：その時間枠指定学部・学年の履修生と再履修生とを分けて、提出した抽選カードによって無作為抽選される。その際、各自に配布されている「優先シール」を貼ってある抽選カードは優先的に受理される。「優先抽選カード（「優先シール」を貼ってある抽選カード）」で定員が埋まらない場合には、それ以外のカードを無作為抽選する。  
「優先抽選カード」が定員を超えて提出された場合は、それを対象に抽選される。  
どの科目に「優先シール」を使用するかは各自で判断する。

**注 2**：静岡キャンパスは共通教育 A 棟 2F 玄関、浜松キャンパスは総合棟玄関前及び情報棟玄関

**注 3**：静岡キャンパスは共通教育 L 棟掲示板、浜松キャンパスは工学部 8 号館南側教養教育掲示板



## 10 英語、初修外国語、健康体育、日本語・日本事情の履修について

### (1) 英語

本学の英語カリキュラムは学生の自主性を重視しており、1年後学期以降の多くを選択科目として開講し、必修単位数を最小限にしています。すべての学部に通ずる2単位分の必修単位数を満たした後は、自らの学習意欲に応じた英語科目を選択していくことができます（学部によって、さらに必修科目が課される場合があるので、以下の表で確認すること）。必修2単位修得後に履修可能となる選択科目の多くには履修条件が設定され、受講者のレベルに制限が設けられています。各自で学習プランを立てながら、履修可能な科目群の中からより高いレベルの科目を選択し、自分の英語力を高めるように努めましょう。

（※人文社会科学部夜間主コースのみ、カリキュラム体系が異なります。ページ(d)を確認すること。）

#### (a) 必修単位数・選択単位数・学部指定履修科目単位数

卒業に必要な単位数および卒業単位に参入可能な単位数は以下の通りです。所属によって異なりますので、十分に注意して履修計画を立ててください。

	人文社会科学部		教育学部		情報学部	理学部	工学部 (NEFEEを除く)	農学部
		夜間主コース	教員養成課程	三課程				
必修単位数	2	2	3	2	2	2	4	2
学部指定履修科目単位数 【注1】	2	0	0	1	2	2	0	1
教養科目「選択」の「その他」 【注2】	6	6	0	3	1 2	4	学科により異なる	8
自由科目 (情報学部は専門科目「その他」) 【注2】	学科により異なる	0	1 1	1 6	6	学科により異なる	学科により異なる	8

【注1】 学部指定履修科目は、英語については特定の科目が指定されていません。選択科目群の中から必要な単位数相当分を履修することが求められます。

【注2】 教養科目の「選択」のうち「その他」及び自由科目は、英語を含むすべての選択科目（情報学部専門科目「その他」は外国語科目のみ）を履修できる単位数であり、必ずしもすべてを英語で履修することができるわけではありません。英語科目として履修できる選択単位数の上限は、提供される英語科目数により規定されます。

#### (b) 必修単位数を満たすのに必要な科目について

##### ① 1年前学期必修クラスの決定について

1年前学期には原則として全員が共通の2科目（「英語コミュニケーションⅠ」および「英語演習Ⅰ」）を履修します。以下の日程で指定された履修クラスを掲示するので、必ず確認すること。

##### ◎ 1年前学期科目 履修クラス掲示日程

日時 平成25年4月8日(月) 14時  
 掲示場所 静岡キャンパス： 共通教育B棟掲示板  
 浜松キャンパス： 教養教育掲示板

1年前学期の2科目は、両方とも4レベル（上級／中上級／初中級／初級）に分けられていますが、履修するクラスとレベルは①入学手続き時の希望調査、②大学入試センター試験の結果またはプレースメントテストの結果に基づいて決定されます。大学入試センター試験で英語を受験していない学生は、以下の要領で実施するプレースメントテストを必ず受験すること。（センター試験をすでに受験している場合は、プレースメントテストを受験することはできない）

実施日時	平成 25 年 4 月 2 日（火）	10：30 ～ 12：00
実施場所	静岡：共通教育 A 棟 205 室	浜松：総合研究棟 24 室

## ② 必修科目・選択必修科目の概要

### a. 「英語コミュニケーションⅠ」（1単位）＜1年前学期に履修＞

英語でのコミュニケーション能力を高めることを目標とする科目です。この科目に合格すると、1年後学期以降に開講される「英語コミュニケーションⅡ」の受講資格を得ることができます。この科目は全学部に通ずる必修科目であるため、不可となった場合には合格するまで繰り返し再履修することが求められます（各学期に再履修生用クラスが用意されます）。また、「英語コミュニケーションⅠ」は教員免許状修得にも必要ですが、教員免許状取得希望学生は、このほかに「英語コミュニケーションⅡ」（1単位）「英語ディスカッション」（2単位）「英語インテンシブ A・B」（各2単位）「英語海外研修 A・B」（各2単位）のうちから1単位以上修得する必要があります。

### b. 「英語演習Ⅰ」（1単位）＜1年前学期に履修＞

4技能（リーディング／リスニング／スピーキング／ライティング）のうち特にリーディングとリスニングに重点を置き、大学生として必要となる英語の基礎力を養います。TOEICの対策なども含み、期末試験としてTOEIC IPテストを受験します<sup>[注3]</sup>。成績評価は以下の基準で行います。

「英語演習Ⅰ」		TOEIC スコア				
		550点以上	500点以上	450点以上	400点以上	400点未満 or 期末試験 未受験
教員 による 評価	90%以上	秀	秀	優	優	不可
	80%以上	秀	優	優	良	不可
	70%以上	秀	優	良	良	不可
	60%以上	秀	良	可	可	不可
	60%未満	優	良	可	可	不可

「教員による評価」の評価基準は、初回授業時に担当教員により示されます。また、成績評価に用いる「TOEIC スコア」は、期末試験を含む当該学期中に複数回 TOEIC を受験した場合、そのうちの最高スコアを採用します。静大生協主催の TOEIC IP テストについては自動的に登録されますが、TOEIC 公開テストのスコアを成績に反映させたい場合、各キャンパス教務窓口にて、期末試験実施前日までに申請する必要があります。「英語演習Ⅰ」を不可になった場合、「英語演習Ⅰ」を再履修することは認められません。1年後学期以降に設置される「基礎英語演習」の履修が義務付けられます<sup>[注4]</sup>。

**【注 3】** 「英語演習 I」の期末試験として実施する TOEIC IP テストの受験料は、大学負担により支払いが免除されます。単位認定等によって単位修得済みの学生も受験することができますが、当該試験の自主的な受験辞退による受験回の振替や受験料相当額の現金支給等はいたしません。

**【注 4】** ただし、以下の条件を満たせば「可」として単位を回復する措置を受けられます。この場合、後学期から履修条件を満たした他の選択科目を履修することができます。

- 1) 「英語演習 I」の期末試験日翌日以降、翌学期履修登録期間開始前日までに実施される TOEIC 公開テスト又は TOEIC IP テストを受験して 400 点以上を取得する。
- 2) 翌学期の履修登録期間開始前日までに各キャンパス教務窓口まで、公式認定証またはスコアシートとともに申告する。

c. **「基礎英語演習」**（週 2 回、1 単位）＜1 年後学期以降各学期に設置＞

英語の基礎的な語彙力や文法力を徹底的に訓練することを目的とするクラスで、週 2 回の授業時間で徹底的に基礎的事項を復習します。「基礎英語演習」は、毎週テストが課されるほか、期末試験には TOEIC IP テストを受験します<sup>【注 5】</sup>。成績評価は以下の基準でなされます。

「基礎英語演習」		TOEIC スコア					
		550 点以上	500 点以上	450 点以上	400 点以上	400 点未満	未受験
授業内テストの合計得点を含む平常点	90%以上	秀	秀	優	優	良	不可
	80%以上	秀	秀	優	優	良	不可
	70%以上	秀	秀	優	良	良	不可
	60%以上	秀	秀	良	良	可	不可
	60%未満	優	優	可	可	不可	不可

「平常点」の算定方法については、初回授業において担当教員によって示されます。欠席が 4 回以上の場合、平常点は 0 点として計算されます。また、成績評価に用いる「TOEIC スコア」については、当該学期中に実施される期末試験を含む TOEIC を受験した場合、そのうちの最高スコアを採用します。

「基礎英語演習」の期末試験受験は義務ではありませんが、学期中に一度も TOEIC の受験がない場合には不可となります。

静大生協主催の TOEIC IP テストについては自動的に登録されますが、TOEIC 公開テストのスコアを成績に反映させたい場合、各キャンパス教務窓口にて、期末試験実施前日までに申請する必要があります。「基礎英語演習」は 1 年後学期以降すべての学期で開講されます。不可になった場合には、単位を修得するまで何回でも繰り返し履修することが義務付けられます<sup>【注 6】</sup>。

**【注 5】** 「基礎英語演習」の期末試験として実施される TOEIC IP テストの受験料は学生自身で申し込み、受験料を支払う必要があります。

**【注 6】** ただし、以下の条件を満たせば「可」として単位を回復する措置を受けられます。この場合、後学期から履修条件を満たした他の選択科目を履修することができます。

- 1) 「基礎英語演習」の期末試験日翌日以降、翌学期履修登録期間開始前日までに実施される TOEIC 公開テスト又は TOEIC IP テストを受験して 400 点以上を取得する。
- 2) 翌学期の履修登録期間開始前日までに各キャンパス教務窓口まで、公式認定証またはスコアシートとともに申告する。



### ③ 教育学部教員養成課程・工学部の必修科目

以下の所属学生は、上記2単位分の他にも以下の科目が必修に指定されています。

#### a. 教育学部教員養成課程：

以下の6科目のうち、いずれか1単位以上。

「英語コミュニケーションⅡ」 「英語ディスカッション」  
 「英語インテンシブA・B」 「英語海外研修A・B」

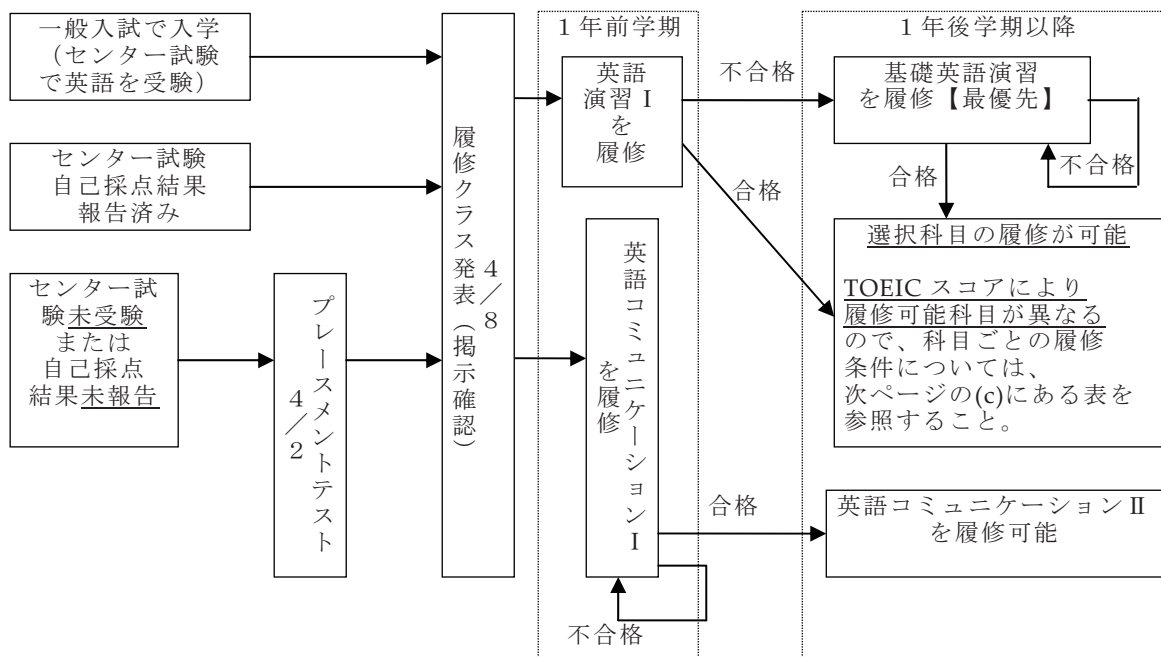
#### b. 工学部全学科：

「アカデミックイングリッシュⅠ」

工学部の「アカデミックイングリッシュⅠ」は学科ごとに開設します。学科の指示に従って履修すること。再履修の場合でも他学科のクラスでは受講できません。

### ④ 英語科目履修のフローチャート

英語カリキュラムを効果的に学習するには、1年次の必修単位（全学部で共通するのは「英語コミュニケーションⅠ」および、「英語演習Ⅰ」又は「基礎英語演習」）を優先して履修することが望まれます。以下に入学時点から1年前学期、後学期以降の履修の流れを図示します。



卒業要件を満たすためには、最低でも必修単位数を満たしている必要があります。  
選択単位数を必修単位に振り替える措置がとられることはありません。

### (c) 1年後学期以降：「学部指定履修科目」および「選択科目」の科目群

#### ① 選択科目のリストと履修条件

各学期開始前の履修登録期間前日までに以下の各条件を満たしている場合、それぞれの科目を履修することができます。各学期に設置されている各科目の履修条件を確認して、履修可能な科目の中から選択して履修してください。

また、受講者多数の場合には抽選を行います。希望のクラスを必ず受講できるとは限りません。

履修条件		科目名		単位数
英語コミュニケーションⅠ に合格していること		英語コミュニケーションⅡ		各1 単位
TOEIC スコア 【注7】	400点 以上	英語リーディングⅠ	英語ライティングⅠ	
		英語演習Ⅱ		
	500点 以上	英語リーディングⅡ	英語ライティングⅡ	
		英語演習Ⅲ	英語 ディスカッション	各2 単位
600点 以上	英語インテンシブA (集中開講)	英語インテンシブB (集中開講)		
クラスごとに設定 【注8】	アカデミックイングリッシュ Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	ビジネス イングリッシュ		
		英語海外研修A・B (夏期集中開講)		

【注7】 静大生協主催の TOEIC IP テストを受験したスコアは学務情報システムに登録されます。それ以外の実施による TOEIC スコア (TOEIC 公開テスト等のもの) を取得した場合、各キャンパス教務窓口まで申請することで、学務情報システムに登録することができます。

【注8】 クラスごとに設定された履修条件は、個々のシラバスで確認すること。特定期間に集中開講する科目については、履修登録期間が学期中に掲示案内されます。

## ② 各選択科目の概要

1 年後学期以降に以下の科目が選択科目として用意されています。

a. 「英語コミュニケーションⅡ」(1 単位)

「英語コミュニケーションⅠ」に合格した学生を対象として、会話能力を高める訓練をします。受講者は授業中できるだけ英語で話すよう求められます。

b. 「英語ディスカッション」(2 単位)

英語の基礎的運用能力が整った学生を対象に、与えられた話題について話し合える会話能力を鍛えます。

c. 「英語リーディングⅠ」(1 単位)・「英語リーディングⅡ」(2 単位)

より高度な英語力をつけるために、リーディング能力に焦点を当てた授業がそれぞれの受講者のレベルに合わせて用意されます。

d. 「英語ライティングⅠ」(1 単位)・「英語ライティングⅡ」(2 単位)

より高度な英語力をつけるために、ライティング能力に焦点を当てた授業がそれぞれの受講者のレベルに合わせて用意されます。

e. 「英語演習Ⅱ」(1 単位)・「英語演習Ⅲ」(2 単位)

より高度な英語力をつけるために、4 技能 (リーディング・リスニング・スピーキング・ライティング) の一部またはすべてに焦点を当てた授業がそれぞれの受講者のレベルに合わせて用意されます。

f. 「英語インテンシブA」(2 単位)・「英語インテンシブB」(2 単位)

高度な英語力を有する学生を対象に、英語運用能力をさらに高めるための授業が用意されています。

g. 「英語海外研修A」(2 単位)・「英語海外研修B」(2 単位)

それぞれネブラスカ大学オマハ校 (アメリカ) およびアルバータ大学 (カナ

ダ)への夏季短期留学に参加します。申し込み期間は4月から5月下旬に設定されます。実施詳細は授業担当者または国際交流課に問い合わせること。

h. 「アカデミックイングリッシュⅠ」(2単位)

「アカデミックイングリッシュⅡ」(2単位)

「アカデミックイングリッシュⅢ」(2単位)

2年後学期以降に設置が予定されている科目です。受講条件を含めて各科目の詳細は、開講年次に設置される授業のシラバスを参照してください。

i. 「ビジネスイングリッシュ」(2単位)

2年後学期以降に設置が予定されている科目です。受講条件を含めて各科目の詳細は、開講年次に設置される授業のシラバスを参照してください。

**(d) 人文社会科学部夜間主コースのカリキュラム**

他学部他学科とはカリキュラム体系が異なり、以下の5科目7単位までが卒業単位として認められます。「英語演習」「英語コミュニケーションA」「英語コミュニケーションB」は夜間主コースに所属する学生のみ受講できます。

必修科目 (2科目 2単位)

「英語演習」(1単位) 「英語コミュニケーションA」(1単位)

選択科目 (3科目 5単位まで)

「英語コミュニケーションB」(1単位)

「英語海外研修A」(2単位) 「英語海外研修B」(2単位)

**(e) 外部試験の団体受験について (TOEIC IP テスト等)**

本カリキュラムでは、英語能力の1つの指標として TOEIC スコアを利用します。近年では就職活動等でも多く利用されるため、学生の利便性を考慮して、キャンパス内でも団体受験が年複数回実施されます。また、海外留学を考える学生のために TOEFL の団体受験の機会もありますので、各自の学習計画に活用しましょう。

【参考】 2013年度の TOEIC IP テスト実施時期

実施回	実施時期	実施回	実施時期
第1回	4月下旬～5月上旬	第4回	10月下旬
第2回	6月上旬～中旬	第5回	12月上旬
前期末試験 <sup>[注9]</sup>	8月1日	後期末試験 <sup>[注9]</sup>	2月6日
第3回	8月下旬～9月上旬		

【注9】 各学期末試験はそれぞれ受験有資格者のみが受験できます。

**(f) コンピュータ学習教材 (ALC NetAcademy2) の利用について**

本学では、コンピュータ教材である ALC NetAcademy2 (アルク教育社) を導入しており、希望する学生が利用することができます (利用料金などはありません)。リスニング力・リーディング力・語彙力の向上や TOEIC 対策のための学習を行うことができ、様々なレベルの練習問題に取り組むことができますので、積極的に活用してください。利用希望者に向けた講習会なども用意されますので、詳細については掲示を確認してください。また、この教材を利用した授業も用意されますので、シラバスをよく読んで履修してください。

### (g) その他の注意事項

- ① (必修科目・選択科目にかかわらず)「基礎英語演習」を除くすべての英語科目の授業において、4回以上欠席した場合には成績を不可とすることが共通ルールで規定されています。自分の出席状況については責任をもって管理すること。
- ② 本学以外の教育施設で授業を受講した場合や、外部試験で一定の成績を収めた場合に、英語科目の単位が認定されます。本履修案内 61 ページ「**本学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する申合せ**」を参照すること。

## (2) 初修外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、現代韓国語)

- (a) 以下の1年次必修科目(クラス指定)は、学部・学科によって履修形態が異なりますので、全学教育科目および各学部のガイダンスには必ず出席してください。
- |              |                   |     |
|--------------|-------------------|-----|
| 人文社会科学部、情報学部 | 初修外国語入門Ⅰ、初修外国語入門Ⅱ | 2単位 |
| 教育学部、理学部、農学部 | 初修外国語入門Ⅰ          | 1単位 |
- (工学部は2年次から選択科目として履修します。)
- クラスについては、初修外国語に関する「履修言語選択申請書」に基づきクラス分けを行います。

#### ◎クラス分け発表:

- 静岡キャンパス: 4月8日(月) 14:00  
発表場所: 共通教育B棟 教務係掲示板
- 浜松キャンパス: 4月8日(月) 14:00  
発表場所: 合同棟2号館南側 教養教育掲示板

- (b) 1年次の選択科目は、人文社会科学部・情報学部(初修外国語Ⅰ・初修外国語Ⅱ)、教育学部・理学部・農学部(初修外国語入門Ⅱ)です。履修希望者は初回の授業時に担当教員に申し出てください。
- (c) 2年次以降の選択科目は学部によって履修方法が異なりますので、全学教育科目および各学部のガイダンスでよく理解してください。
- (d) **第3外国語の履修について**  
2、3、4年次生が2つ目の初修外国語を履修した場合は、「初修外国語入門Ⅰ」および「初修外国語入門Ⅱ」に限り選択科目の単位として卒業単位に含めることができます。(人文社会科学部は初修外国語Ⅰ～Ⅳも含めることができる。)クラス人数等の制約があるので授業の時に担当教員に申し出てください。  
なお、上記の「初修外国語入門Ⅰ」と「初修外国語入門Ⅱ」の履修言語が異なる場合には、どちらか1科目1単位しか卒業単位に含めることができないので注意してください。
- (e) 人文社会科学部夜間主コースはカリキュラム体系が異なりますので、ガイダンスで配布する「履修の手引き」等を参照し、履修をしてください。

## (3) 健康体育

健康体育科目には、1年次から履修できる(工学部は3年次から)実技+講義の「健康体育Ⅰ(前学期)」「健康体育Ⅱ(後学期)」と、2年次から履修できる実技を主とした「スポーツⅠ(前学期)」「スポーツⅡ(後学期)」があります。学部・学科によって履修形態が異なりますので、授業科目一覧表を参照してください。

#### (a) 健康体育の履修およびクラス分けについて

「健康体育Ⅰ」「健康体育Ⅱ」を履修する1年生は、第1回目の授業でガイダンス、履修受付およびクラス分けを行いますので、学部学科ごとに指定された時限に体育館（静岡は体育館柔道場）へ集合してください。指定された時限以外の履修はできません。

「健康体育Ⅰ」「健康体育Ⅱ」を再履修する2年生以上は、健康体育が開講されているいずれかの時限を自由に選んで、第1回目の体育館でのクラス分けに参加してください。1年生と同じ扱いでクラス分けに参加できます。

クラスサイズは1クラス40名前後を基本としますが、希望者多数の場合はその場で抽選を行います。

第1回目のクラス分けを欠席した受講希望者のうち静岡キャンパスの学生は、後日、健康体育共同研究室（共通教育D棟3階）を訪ねてください。浜松キャンパスの学生には、後日、案内を掲示します。余裕のあるクラスに入ることができます（クラス選択はできません）。

#### (b) スポーツの履修およびクラス分けについて

「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」を履修する2年生以上は、第1回目の授業でガイダンス、履修受付およびクラス分けを行いますので、体育館に集合してください。

クラスサイズは1クラス40名以内を基本としますが、希望者多数の場合はその場で抽選を行います。

第1回目のクラス分けを欠席した受講希望者のうち静岡キャンパスの人は、後日、健康体育共同研究室（共通教育D棟3階）を訪ねてください。浜松キャンパスの人は、第2回目の授業で直接授業担当教員に相談してください。余裕のあるクラスに入ることができます。

なお、「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」を履修できるのは、原則として「健康体育Ⅰ」「健康体育Ⅱ」を1単位以上修得している者とします。

### (4) 日本語・日本事情

「日本語」については一定以上の日本語力を有していると授業担当者が認定した場合を除いて、日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲの3科目は留学生全員が履修することとします。なお、日本語科目の履修を希望しない場合は、必ず授業担当者の認定を受けてください。

「日本事情」は、現代教養科目の単位として振り替えることができます。

\* 「留学生科目に関する申合せ」（p67）を参照してください。

## 11 学外での授業の履修について

静岡大学以外の教育施設で学修した科目等が単位認定されるものとして、留学、語学研修共同授業、連携講義、放送大学があります。

詳細は「本学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する申合せ」（p61）を参照してください。



## 12 学務情報システムの利用について

### アクセスの方法

学務情報システムを利用する際は、以下の URL からトップページにアクセスしてください。

<https://gakujo.shizuoka.ac.jp> (先頭が https となっていますのでご注意ください。)

システムの利用は学外からも行えますが、学籍情報の参照・更新の各機能は、学内ネットワークに接続している端末からのみアクセス可能です。

#### 〔学内からの接続端末の例〕

- (1) 情報基盤センター実習室
- (2) 教室等にある情報端末コンセントや無線LANのアクセスポイント
- (3) 研究室等に設置されているパソコン

※ (1) (2) の PC を使用する場合、別途配布されるパスワードが必要となります。

※スマートフォンからも基本的機能の利用が可能です。学外接続の扱いとなります。

トップページには履修登録に関係する重要なお知らせ等が掲載されますので、システムの利用時には一通り内容を確認してください。また、システムの操作マニュアルや Q&A などのファイルもアップロードされていますので、適宜参照願います。

- ・学務情報システムの操作方法について疑問や質問がある場合には、各学部の学務（教務）系の窓口にもまずお問い合わせください。
- ・不測のシステム停止が発生してトップページ自体が閲覧できなくなった際は、静岡大学公式 HP の「在学生の皆様」のページにて情報を提供します。また、レポート締切等がある場合にはシステムが復旧し次第、教員から期限の延長等についてメール連絡を行います。

### トップページ

The screenshot shows the homepage of the Shizuoka University Student Affairs System. At the top left is the university logo and the text '静岡大学 学務情報システム Shizuoka University Student Affairs System'. To the right are two buttons: '静岡大学公式サイト' and '情報基盤関係サイト'. Below this is a large banner image of a university building. A callout box points to the banner with the text: 'トップページには様々なお知らせ情報が掲載されます。' Below the banner are two main sections: '新着情報' (New Information) and '学生向け情報' (Information for Students). The '新着情報' section has a date '2012.06.18' and a title '地震以外の気象警報発令時における授業休止措置のガイドラインについて'. Below the title are three links: '暴風、大雨等の気象に関する警報が発令された状況等における大学の授業等を休止する措置のガイドラインを掲載します。', '気象警報発令時における授業休止措置のガイドライン', and 'ガイドライン対応マニュアル'. The '学生向け情報' section has a title '共通のお知らせ' and a date '27日更新'. A callout box points to the 'ログイン' button with the text: '「ログイン」ボタンを押すと「統合認証ログイン画面」が開きます。(H25/4 下旬以降)'. Another callout box points to the '新着情報' section with the text: '27日更新)の読替表を掲載します。旧カリの学生が新カリ科目を履修する際に参考にしてください。' At the bottom of the page, there is a small note: '@パスワードの再発行について 学務情報システムで使用するアカウントと、情報基盤センター実習室PCへログインする際のアカウントは異なるものです。パスワードの再発行をする場合は、学務情報システムは各学部学務(教務)係、実習室PCは情報基盤センター窓口にて手続きを行ってください。'

## ログイン

パスワードは、統合認証用「アカウント通知書」に記載の内容を入力してください。ただし、統合認証への切替は平成 25 年 4 月下旬以降になるため、それ以前は、学務情報システム専用の従来版パスワードを使用します。

統合認証の切替前後で、下記イメージのとおり、ログイン画面が若干異なります。

### 統合認証ログイン画面

国立大学法人  
**静岡大学** National University Corporation  
Shizuoka University

Shibboleth Identity Provider Login

このサービスを利用するには、静大IDとパスワードが必要です。  
You need to provide your SHIZUDAI ID/Password to use this service.

静大ID

パスワード

Login

※このページをブックマーク(お気に入りに登録)しないでください。  
Do not bookmark(favorites) this page.

- ログイン後30分間はID、パスワードを再入力することなく他システムを利用できます。
- 共用パソコンの利用後はログアウトのためブラウザを完全に終了させてください。
- 静大IDのパスワードを変更したい場合はこちらをご覧ください。
- 静大IDやパスワードが不明の場合はこちらをご覧ください。
- idp.shizuoka.ac.jpに対してCookieを有効にしてください。

### 仮ログイン画面

ユーザーIDとパスワードを入力して「ログイン」ボタンを押します。  
(H25/4 下旬以降)

統合認証切替までは、トップページ左にあるフォームにパスワードを入力してログインしてください。(H25/4 中旬まで)

ログインが成功すると、学籍情報システムに登録されているメールアドレス2に「〇月〇日〇時〇分にあなたのIDで学務情報システムにログインしました。」という内容のメールが送信されます。

## ホーム画面

ログイン直後のホーム画面には、新着情報や教務システムへのリンクが配置されています。

### ホーム画面

LiveCampus

ホーム トップメニュー

静岡 太郎さん 59:58 ログアウト

重要なお知らせ

10月20日(月)20時~22時の間、設備メンテナンスのため全館停電  
ご注意ください。  
なお、メンテナンス終了後は全館アナウンスにてお知らせいたします。  
事務局より

ログアウトボタンです。なお、統合認証から完全にログアウトするには、全てのWEBブラウザ画面を閉じる必要があります。

お知らせの新着情報が一覧表示されます。

学内連絡	2012/06/11	駐輪場工事のお知らせ	教務課
学内連絡	2012/06/01	2012/06/28 就活セミナーの開催について	就職課
授業連絡	2012/06/01	2012/06/06「英語」休講となります	教員 太郎

もっと見る

履修登録、成績確認、学籍情報修正は、このリンクから教務システムを開いて行います。

## パスワード変更

アカウント通知書に記載のパスワードは、早めにオリジナルのパスワードに変更をしてください。設定の際は下記の項目に留意してください。

- ・セキュリティの観点から、パスワードは120日を目安に定期更新することを推奨します。
- ・パスワードには、個人が特定できる情報や辞書に載っている単語、他の者が推測できるような言葉は使用しないでください。
- ・変更したパスワードは忘れないよう注意してください。万一忘れてしまった場合は、以下の案内のとおり、手続きを行ってください。

### ■ 統合認証パスワードを変更する場合（H25/4 下旬以降）

平成25年4月下旬以降に利用が開始される統合認証パスワードは、以下の流れで変更することができます。変更画面は学内からのみアクセス可能です。

**統合認証ログイン画面**

ログイン画面の下段にある、パスワード変更のリンクを押します。

統合認証用の静大 ID とパスワードを入力して、ログインしてください。

**静大 ID での認証**

新しいパスワードを入力して、変更ボタンを押してください。

**新パスワードの入力**

**パスワード変更完了**

注意事項

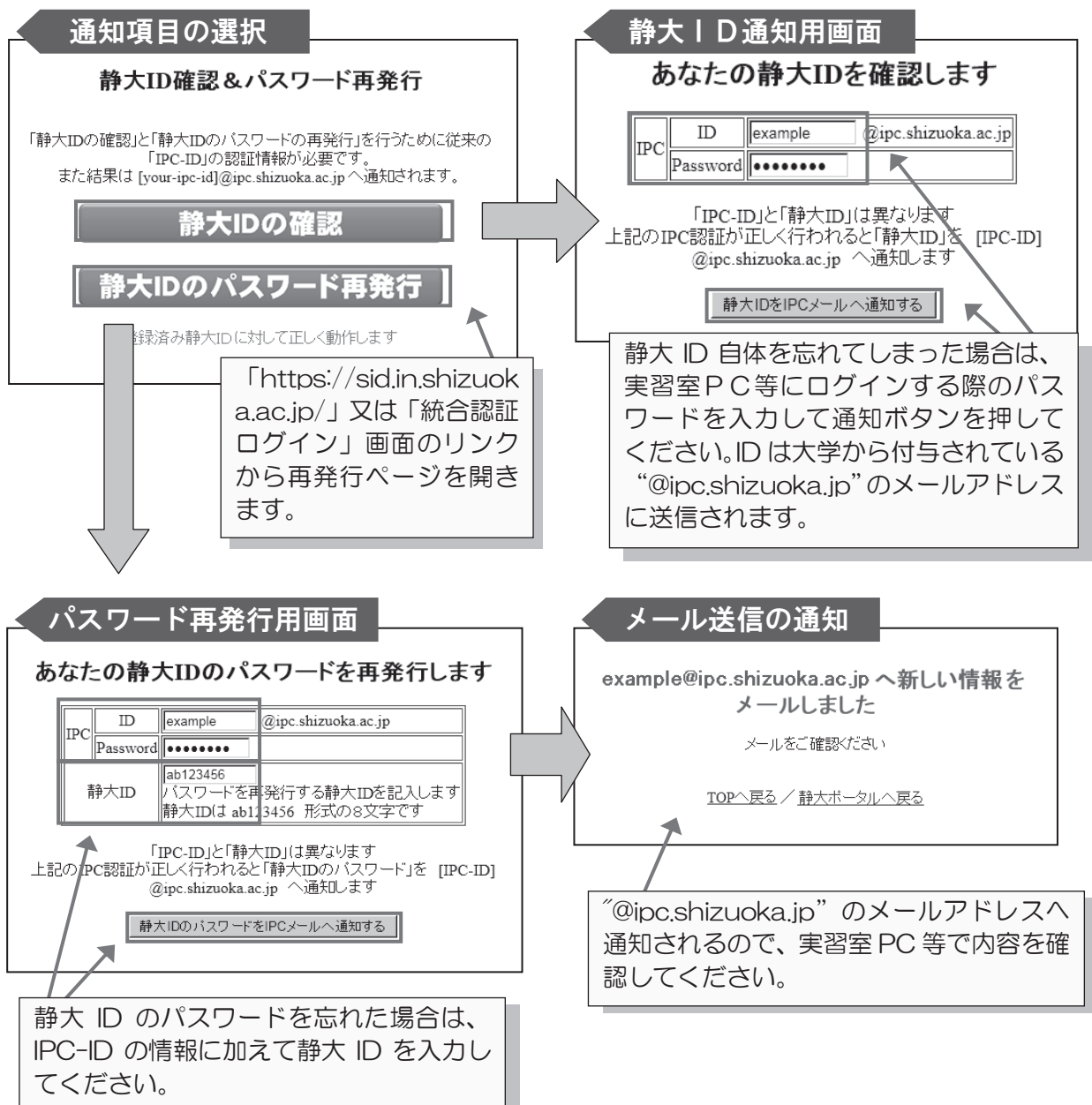
- 1 次の文字が使用可能です。  
半角数字、半角英字小文字、半角英字大文字
- 2 文字数は6文字から8文字で入力してください。
- 3 1文字以上の英文字および1文字以上の数字を含むように入力してください。
- 4 単純なパスワードや英単語は使用できません。



## ■ 統合認証パスワードを忘れた場合（H25/4 下旬～H26/3 まで）

統合認証パスワードの再発行は、変更とは別の WEB ページで行います。自分の静大 ID を忘れてしまった場合にも、この画面から通知メールを送信し確認してください。

- ・パスワード再発行ページは学内限定となっていますので、実習室 PC 等を利用してください。
- ・平成 26 年 4 月以降は、別の方式で再発行を行うようになります。詳細については、後日掲示等にてお知らせします。
- ・実習室 PC にログインする際のパスワード（IPC-ID のパスワード）自体を忘れてしまった場合は、学生証を持参し情報基盤センター事務室で再発行を行ってください。



## 〔統合認証からのログアウトについて〕

統合認証の導入後は、学務情報システム上のログアウトボタンを押しても、認証情報がWEBブラウザのCookie上に残ったままになるため、パスワード入力無しに再ログインができてしまいます。

統合認証からも完全にログアウトするためには、全てのWEBブラウザ画面を一度閉じる必要がありますのでご注意ください。

## 〔タイムアウトについて〕

学務情報システムでは60分以上操作がないと、自動的にログアウトするようになっています。ここで言う「操作」とはサーバとの通信を伴う画面切替を意味するため、単に画面へ文字入力をするのみでは、時間の更新はされません。

なお、統合認証についても、パスワード認証後30分が経過すると、新たなシステムへログインすることができなくなります。

## ■ ローカルパスワードを変更する場合（H25/4 中旬まで）

平成25年4月中旬までは、学務情報システム専用のパスワード（ローカルパスワード）を使いログインします。パスワードの変更方法については、以下の案内を参照してください。

**ホーム画面**

**パスワード変更画面**

統合認証切替前は、ここからローカルパスワードの変更画面を開きます。

新しいパスワードを入力して、登録ボタンを押してください。

## ■ ローカルパスワードを忘れた場合（H25/4 中旬まで）

パスワードの再発行は所属学部の学務（教務）係で行いますので、学生証を持参の上、窓口に来てください。

## 教務システムの概要

履修・成績関係の情報確認や、学生の連絡先を登録する機能等は、「教務システム」上の各画面で行います。ログイン直後のホーム画面から「教務（成績・履修）」のリンクを選択すると、新規ウィンドウで下記の「教務システムメニュー画面」が開きます。

次ページ以降に主な機能の詳細が記載されていますが、各機能を利用する際はこのメニュー画面から該当のリンクを選択することになります。

### 〔各システムの名称について〕

「学務情報システム」という用語は、教務システム・授業支援システム・就職支援システムを含めた総称として使用しています。履修登録・成績確認・学籍情報修正等は「教務システム」、各授業のレポート提出等は「授業支援システム」といった形でサブシステムに分かれています。

なお、ログイン直後に表示されるポータル（入口）画面は、「授業支援システム」の一部となっています。

教員免許状取得希望者（H22以降入学者）は、教職履修カルテの入力が必要です。

ここで希望資格登録を行うと、「単位修得情報の参照」画面で資格ごとの要件単位を確認できます。

WEB 抽選を行わない定期開講授業を履修登録する画面です。履修取消期間中の取消作業も同じ画面で行います。

### 教務システムメニュー画面

タイムアウトまでおよそ3581秒です。  
ログアウト

Login User

**履修関連**

- 抽選履修登録
- 抽選履修登録結果
- 一般講義履修登録
- 集中講義履修登録
- 取得希望資格登録
- 教職履修カルテ
- キャリア履修カルテ

**時間割関連**

- 個人時間割
- 試験時間割
- 全試験時間割
- 全時間割

**成績情報関連**

- 成績情報の参照
- 単位修得情報の参照
- カリキュラムの参照

**学生情報関連**

- 学籍情報の参照
- 学籍情報の更新

What's New!!

2012/00/00 ■ 呼び出し係:○○学部学務係  
○○○○○○○○○○○ ...

各履修科目の成績評価はこのリンクから確認できます。

卒業要件・資格要件単位の修得状況は、ここから確認します。

メールアドレス等の登録・修正は、このリンクから行います。

## 学籍情報の更新

履修登録を行うためにはメールアドレス、現住所、電話番号の登録をする必要があります。メールアドレスは2種類の入力欄があり、メールアドレス1には情報基盤センターから割り当てられるアドレスが事前登録されています。メールアドレス2には、大学からの休講情報など重要なお知らせが送信されますので、各自の携帯電話等のアドレスを設定してください。

### 学籍情報更新画面

学籍情報更新

この画面は学内ネットワークからのみ利用可能です。

現住所、郵便番号、メールアドレス、住居区分等の「本人が管理するデータ」を入力／修正して確認ボタンをクリックしてください。メールアドレス2の入力は必須です。入力されていない場合は、メールの配信は行われません。

戻る

#### ■学生基本情報

学籍番号	00000000		
氏名(フリガナ)	静岡 太郎(シズオカ タロウ)		
メールアドレス1(半角50文字まで)	@ipc.shizuoka.ac.jp		
メールアドレス2(半角50文字まで)	@docomo.ne.jp		
生年月日	1900年 00月 00日	性別	男
在学形態	一般学生	在籍状況	在学中
学生所属	理学部/数学科/		

事前に情報基盤センターのアドレスが入力されています。

各自の携帯アドレス等を入力します。

#### ■学生連絡先

郵便番号(半角8文字まで)	422 - 8531	住所検索	住居区分	学生寮
住所(全角50文字まで)	静岡県静岡市駿河区大谷836 片山寮			
電話番号1(半角17文字まで)	000-000-0000	学生本人の現住所を入力します。		
電話番号2(半角17文字まで)	000-0000-0000	固定電話の番号を入力します。		

#### ■保証人連絡先

保証人氏名	続柄	携帯電話の番号を入力します。
保証人住所		
保証人電話番号		

戻る OK 確認 リセット

確認ボタンを押して登録を確定させると、メールアドレス2へ更新通知メールが送信されます。しばらく待ってもメールが届かない場合は、アドレスに入力ミスがないか、迷惑メールフィルタの設定に問題がないか確認してください。通知メールの送信元アドレスは「@adb.shizuoka.ac.jp」で終わります。

メールアドレス、現住所、電話番号に変更が出た際は、各自で最新の情報に更新してください。

### 【安否情報システムについて】

「静岡大学安否情報システム」は大規模な地震等が発生した時に、各学生が静大のWEBサイトへ現在の所在地や健康状態を登録し、親や大学が安否を確認できるようにするためのシステムです。【 URL : <http://anpi.ipc.shizuoka.ac.jp/> 】

地震発生後、携帯電話等に登録用URLがメール送信されますが、この宛先には学務情報システムの「メールアドレス2」が使用されています。安否情報システムとは1日1回の頻度でデータ連携を行っています。

## 一般講義履修登録

WEB 抽選をしない定期開講授業の履修登録は、「一般講義履修登録」のリンクから行います。なお、集中講義については各学部で指定する登録期間中に「集中講義履修登録」のリンクで履修登録をしますが、操作方法は基本的に一般講義と同様なので、説明は割愛します。

また、WEB 抽選対象科目は「抽選履修登録」のリンクから志望順位の登録を行います。1年次の後期以降に、該当する学部でのみ実施されますので、別途掲示される案内を参照してください。基本的に抽選科目の登録は、非抽選科目の登録期間の前に行われます。

### ■ 履修登録期間中の操作

「一般講義履修登録」は前学期（前学期分と通年分）及び後学期毎に予め決められた履修登録期間に行います。以下の手順を参考に、各自で締切日までに忘れずに登録を行ってください。

1. システム登録をする前に、シラバス（授業概要）、時間割、履修の手引き等により、まずどの科目を履修するか決めておきます。

- ・本学の多くの授業は90分1コマを基本に行われますので、履修科目の曜日とコマを調べておいてください。なお、「コマ」は「時限」の2つ分に相当し、例えば「火曜2コマ」と「火曜3・4時限」は同じ意味になります。
- ・外国語や健康体育等の科目では、1つの科目名に複数のクラスが立てられています。それぞれのクラス分けは掲示板等に案内されていますので、正しいクラスを選んで登録してください。クラス名を誤ると履修登録忘れと同様にみなされ、試験に合格しても単位が認定されないことがあります。

2. システム上の各コマ（開講曜日時限）の鉛筆ボタンをクリックして、開講されている科目のリストから履修したい科目を選択します。1年次の必修科目等では、あらかじめ履修科目が一括登録されている場合もあります。

3. 上記の処理を履修登録するすべての科目に対して繰り返し行います。各コマに科目が黄色で表示されれば、その時点で履修登録済みになります。履修登録期間中であれば、何度でも追加・取消が可能です。

4. すべての登録が終わったら、「戻る」ボタン等で画面を閉じてください。履修データはコマ毎に独立して登録処理されますので、全体的な最終確認ボタンはありません。

- ・病気等の理由により履修登録期間中に登録できない場合は、事前に所属学部の学務（教務）係の窓口へ連絡してください。
- ・他学部の専門科目もWEB登録できますが、学務（教務）係窓口で配布される「他学部授業履修届」を別途提出する必要があります。

### 【キャップ制について】 ※平成24年度以前入学生には制限は掛かりません。

平成25年度入学の学部生からキャップ制（履修登録上制限）が導入され、半期毎に登録できる総単位数がシステム上で制限されるようになっていきます。

上限単位は直前学期のGPA値により変動し、具体的な数値は「一般講義履修登録」画面の右上に表示されています。上限を超える単位を選択しようとする、「登録」ボタンを押した際にエラーが出ます。

表示されている上限単位数等に不明な点がある場合は、所属学部の学務（教務）係の窓口へ申し出てください。



# 一般履修登録画面

LiveCampus  
Academic Affairs System

履修情報関連 > 一般講義履修登録 > 一般講義履修登録

メニューへ MENU LOGOUT

印刷

直前学期 GPA 値とそれに基づく履修上限単位数が表示されます。(H25以降入学生のみ適用)

⑦ 直前学期GPA値	3.251
履修上限単位数	28.0

① 一括履修 ② 修得済科目 ③ 確認メール ④ 読替表 ⑤ 印刷 ⑥ 科目名検索

2013年度 後期

設定ボタンを押すと該当する曜日時限に時間割として登録されている科目を検索して履修登録することができます。

取消ボタンを押すと登録されている科目を取り消すことができます。

⑧ 科学の現状と(○○)  
○○ ○○  
選必 2単位  
共A.000

⑨ ⑩ 微分積分学IV(○○)  
○○ ○○  
必 2単位  
共A.000

⑪ マルチメディア(○○)  
○○ ○○  
選必 2単位  
共A.000

⑪ 情報化社会論(○○)  
○○ ○○  
選必 2単位  
共A.000

シラバスボタンから各科目のシラバスも表示できます。

科目詳細

確認が終わったら、開じるボタンをクリックしてください。

シラバス

科目名	情報化社会論
科目番号	00000000
読替前科目名	情報化社会論
読替後科目名	○○○○論 ○○○○演習
クラス名	○○
担当教員	○○ ○○
科目区分	専門 選択
必修選択区分	選必
単位数	2単位

閉じる

半コマ科目又はクォータ科目は1コマに2科目登録できます。

科目名のリンクをクリックすると科目詳細画面が表示されます。

項目名	説明
① 一括履修	必修科目を一括して履修登録できます。
② 修得済科目	単位修得済の科目を一覧表示します。
③ 確認メール	登録されているメールアドレス2に履修確認メールを送信します。
④ 読替表	全学共通の読替表がPDFファイルで参照できます。
⑤ 印刷	履修登録した科目の履修確認表をPDFファイルで出力します。
⑥ 科目名検索	全てのコマの開講科目を検索・登録します。
⑦ 履修上限単位数	キャップ制が適用される H25 以降入学生が対象。履修上限単位数を超えて登録しようとすると、エラーメッセージが表示されます。
⑧ コマ	履修登録中の科目を表示します。 空白：履修中の科目がないコマ（曜日時限）です。 黄色：履修登録済みの科目です。取消・追加ができます。半コマ科目（1時限のみ）又はクォータ科目の場合、前半と後半の組み合わせであれば同一コマ内に両方登録することが可能です。 オレンジ色：履修確定している科目です。取り消すことはできません。
⑨ 鉛筆ボタン	該当するコマの開講科目を検索・登録します。講義検索画面が表示されますので、検索条件を設定して履修登録したい科目を検索・登録します。
⑩ 消しゴムボタン	履修登録科目を取り消します。科目の登録をやり直す場合は該当コマの消しゴムボタンをクリックして登録済みの科目を削除します。
⑪ 授業科目名	授業科目名をクリックすると科目詳細画面が表示されます。
⑫ 戻る	全ての履修科目の登録が完了した場合や途中保存する場合にクリックします。

## 講義検索画面

講義検索

月曜日 1・2限  
検索条件を選択して、検索ボタンをクリックしてください。

学部/研究科

学科・課程/専攻

コース/専攻等

学年

科目区分

必修選択区分

登録したい科目を選択して、登録ボタンをクリックしてください。

科目名(クラス名)	担当教員	単位数	曜日	時限	講義室
<input type="radio"/> 日本語Ⅲ(人教理農)	〇〇 〇〇	2	月	1・2限	日本語教室
<input type="radio"/> フランス事情Ⅱ(人文専門)	〇〇 〇〇		月	1・2限	共A404

初期画面には、自分の所属学部・学科・コース・学年が表示されます。

科目区分、必修選択区分は「選択してください」の状態でご検索ボタンを押してください。

検索条件に該当する科目が表示されますので、希望科目を選択してください。科目名のリンクをクリックすると、シラバスが表示されます。

科目を選択したら登録ボタンを押します。

- ・対象学年以外の科目も検索することができますが、登録ボタンを押した際にエラーが表示されます。なお、シラバスの学年表示は、便宜上最低学年のみが記載されています。
- ・既に単位修得済の科目については、検索結果一覧に表示されません。

## 不定期開講科目の登録

卒業研究やゼミのような、集中講義ではない不定期開講科目は、コマ毎の鉛筆ボタンではなく「一般講義履修登録」画面の最下段にある「設定」ボタンから行います。

### 不定期科目登録画面

11・12限	<input type="button" value="鉛筆"/>	<input type="button" value="鉛筆"/>	<input type="button" value="鉛筆"/>	<input type="button" value="鉛筆"/>	<input type="button" value="鉛筆"/>
13・14限	<input type="button" value="鉛筆"/>	<input type="button" value="鉛筆"/>	<input type="button" value="鉛筆"/>	<input type="button" value="鉛筆"/>	<input type="button" value="鉛筆"/>

不定期科目（卒研・ゼミ）の登録は、一般履修登録画面の最下段の欄で行います。

■卒研・ゼミ

設定ボタンを押すと、時間外科目を検索して、履修登録することができます。

取消ボタンを押すと登録されている科目を取り消すことができます。

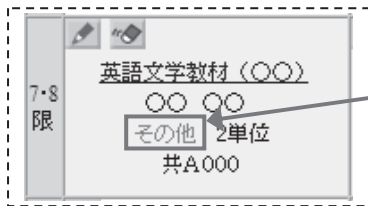
「設定」ボタンを押すと科目選択画面が開き、希望科目の登録ができます。

科目名	クラス名	担当教員	必修選択区分	単位数
卒業研究	〇〇	〇〇 〇〇	選必	2

Copyright (c) 2007 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

## ■ 卒業要件外の科目

科目区分が「その他」になっているものは、カリキュラム外科目であり、そのままでは卒業要件として利用できません。新旧カリキュラム読替表等に対応科目があれば、単位修得のタイミングで読替先科目に置き換えられます。履修登録の段階で、読替対応科目があるか十分注意をしてください。



履修登録画面で単位数の左側にある区分表示が、「必」「選必」「選択」でなく「その他」になっている場合は査定外科目となります。

## ■ 履修取消期間中の操作

各学期の授業開始1カ月後頃に履修取消期間が設定されており、掲示板等で案内されます。この期間中に限り、学務情報システムから登録済の履修科目を各自で削除することが可能です。継続履修する意思のない科目を削除することで、「不可」の評価でGPA値を下げることを回避できます。

**一般履修登録画面(取消期間中)**

LiveCampus Academic Affairs System

履修情報関連 > 一般講義履修登録 > 一般講義履修登録

メニューへ MENU ログアウト LOGOUT

Login User

タイムアウトまでおよそ3596秒です。印刷

2012年度 後期

取消ボタンを押すと登録されている科目を取り消すことができます。  
一度取り消した科目は再登録ができませんので、十分確認した上で取消ボタンを押してください。

戻る

修得済科目 確認メール 読替表 印刷

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1・2限				位相数学入門(OO) ○○ ○○ 必 2単位 共A000		
3・4限	科学の現状と(OO) ○○ ○○ 選必 2単位 共A000		最分離分子IV(OO) ○○ ○○ 必 2単位 共A000		○○○○論(OO) ○○ ○○ 必 2単位 共A000	
5・6限		発生物学Ⅰ(OO) ○○ ○○ 選必 1単位(後期前半) 共A000		マルチメディア(OO) ○○ ○○ 選必 2単位 共A000		
7・8限		発生物学Ⅱ(OO) ○○ ○○ 選必 1単位(後期後半)		情報化社会論(OO) ○○ ○○ 選必 2単位 共A000		
9-						

一度「取消」ボタンを押すと再登録ができなくなりますので、十分確認した上で操作してください。

「取消」ボタンを押した時点で、授業担当教員(分担教員も含む)へメール通知が送られます。基本的に教員による承認手続きは不要となります。

履修取消期間になると、「一般講義登録画面」に再度アクセス可能となり、消しゴムボタンのみが表示されます。

講義取消

以下の講義を取り消します。  
一度取り消した科目は再登録ができませんので、十分確認した上で取消ボタンを押してください。

科目名	○○○○論
クラス名	○○
担当教員	○○ ○○
単位数	2単位

取消 閉じる

直前学期GPA値 3.251  
履修上限単位数 28.0



## 成績情報の参照

成績は授業担当教員が成績報告を行った後に、所属学部の学務（教務）係で公開処理をして、初めて参照可能になります。新学期の履修登録期間の開始前までに、各自で成績の確認を行ってください。

### 成績情報参照画面

LiveCampus Academic Affairs System

成績情報関連 > 成績情報の参照 > 成績情報参照

メニューへ MENU ログアウト LOGOUT

Login User

タイムアウトまでおよそ3345秒です。印刷

成績情報参照

学籍番号: 00000000 学生氏名: 静阿 太郎

評価別単位 印刷 GPA 年別単位

卒業要件

戻る

科目名	担当教員名	科目区分	必修選択区分	単位	評価	得点	科目GP	取得年度	報告日	試験種別
新生セミナー	〇〇 〇〇	新生セミナー...	選択	2	良	75	2.00	2010	2010-09-01	
情報処理	〇〇 〇〇	情報処理	選択	2	不可	30	0.00	2010	2010-09-01	
TOEIC演習SE	〇〇 〇〇	実用英語 1...	選必	2	優	85	3.00	2010	2010-09-01	
総合英語	〇〇 〇〇	実用英語 1...	選必	2	良	75	2.00	2010	2011-02-01	
応用英語A	〇〇 〇〇	実用英語 2...	選必	2	良	75	2.00	2011	2011-08-01	
応用英語B	〇〇 〇〇	実用英語 2...	選必	2	秀	92	3.70	2011	2012-02-25	

評価別単位

確認が終わったら閉じるボタンをクリックしてください。

秀	6
優	25
良	49
可	28
合	2
認定	0
合計	110

閉じる

評価毎の合計単位数を一覧表示します。

各科目の評価とあわせて、得点及びGPが表示されます。

GPA

確認が終わったら、閉じるボタンをクリックしてください。

GPAグラフは、同一学部、同一学年の学生を対象として人数の分布を集計しています。

年	3年
平均GPA値	1.729
0年度 前期 GPA値	1.852
0年度 後期 GPA値	1.845
1年度 前期 GPA値	1.701
1年度 後期 GPA値	1.835
2年度 前期 GPA値	1.553

GPA算出日 2013年 02月 06日

同一学部・同一学年における、GPA 値の人数分布をグラフ表示します。

成績通知表

PDF

履修中科目や過去の不合格科目も含めた成績通知表を、PDF形式で出力します。学部によっては、定期的にこの様式により、成績を保証人へ郵送しています。

あなたのGPA値は、1.729です。

学期毎のGPA値を一覧表示します。

閉じる

## 単位修得情報の参照

卒業要件・資格要件それぞれについて、要件区分毎の修得済単位数を確認することができます。必要な単位を正しく修得しているかを簡単に調べることができますが、卒業・資格単位の確認は基本的に学生便覧を使って行うようにし、WEBの集計単位数はあくまで二重チェック用として捉えてください。

- ・「教養科目選択」等、余剰単位を他の科目区分に振替える処理についても、反映済みの数値で表示されます。振替元の単位数は、移動した分減算されています。
- ・学部の運用によっては、この画面を参照できない設定にしている場合があります。

### 単位修得情報参照画面

**LiveCampus**  
Academic Affairs System

成績情報関連 > 単位修得情報の参照 > 単位修得情報参照

単位修得情報参照

学籍番号: 00000000 学生氏名: 静岡 太郎  
余剰単位を他に振り替える扱いをする科目区分においては、上限単位の値を超えた単位数が振替先に加算されます。

卒業要件・資格要件の種別を切り替えることで、各集計表を参照できます。資格要件は「取得希望資格登録」画面で追加したものがリストとして表示されます。

印刷

要件種別: 卒業要件

- 卒業要件
- 高等学校一種(数学)
- 中学校一種(数学)
- 小学校一種

大要件区分	中要件区分	科目区分	必修選択区分	必要単位	上限単位	修得単位	履修単位	
【教養科目】	〔基礎教育科目〕	実用英語 1年次	選必	4	4	4	0	
		実用英語 2年次	選必	4	0	4	0	
		初修外国語	選必	4	0	4	0	
	中要件合計				12		12	0
	〔現代教養科目〕	個別分野 人文	選必	2	2	2	0	
		個別分野 自然	選必	4	4	4	0	
		学際科目	選必	2	2	2	0	
	中要件合計				8		8	0
	〔教養科目 選択〕	実用英語 選択	選択	0	4	2	0	
		初修外国語 選択	選択	0	2	0	0	
個別分野 選択		選択	0	4	0	2		
学際科目 選択		選択	0	4	2	0		
中要件合計				8		4	2	
大要件合計				28		24	2	

履修単位・修得単位ともに、上限単位を超えた単位数は振替先に加算されます。

履修単位と修得単位の合計が必要単位に満たない場合は、赤字で表示されます。

**未修得必修**

確認が終わったら、閉じるボタンをクリックしてください。

科目名	単位数
道徳指導論	2
算数・数学科教科内容指導論Ⅱ	2
応用数学基礎	2
卒業研究(教員養成)	7

未修得必修科目の一覧を確認できます。

## 取得希望資格登録

学務情報システムでの取得希望資格の登録は、教職履修カルテへの希望免許種の表示や、「成績情報参照」、「単位修得情報参照」の各画面における要件種別の選択リストに反映されます。

### 取得希望資格登録画面

右側の資格一覧から希望資格を選んで左側に移動、「確認」ボタンを押して確定させます。

・システムへの登録可能期間は学部により異なります。期間外の止むを得ない登録・修正は各学部の学務（教務）係にご相談ください。

## 教職履修カルテ登録

教員免許状取得希望者は、4年次に開講される「教職実践演習」に使用する「教職履修カルテ」を作成する必要があります。教職履修カルテは「教職に関する科目」の必修や「各教科教育法」などを対象とし、それぞれの科目で「学んだことと課題」と「自己評価」を入力します。

### 教職履修カルテ登録画面

各科目に対して「学んだことと課題」、「自己評価」を入力します。

## ■ 教職履修カルテの入力時期

教職履修カルテの作成は下記の流れで行いますので、締切日までに忘れず入力をしてください。

### 《履修登録》

対象となる教職科目の履修が確定した時点からカルテの入力が可能になります。

### 《授業終了》

授業終了後速やかに学んだことと課題・自己評価欄を記入します。内容は当該授業の評価には影響しません。

### 《各年度末》

各科目のカルテは授業開講の年度内であれば修正可能です。締切り後はシステムからの編集ができません。

## 授業レポートの提出

授業担当教員から学務情報システムによるレポート提出の指示が出された場合は、以下のような手順でファイルのアップロードを行ってください。

### 授業サポート画面への切替

授業支援システムのホーム画面から「授業サポート」画面に切り替え、「レポート」を選択します。

### レポート一覧画面

「受付中」のレポートには「提出」ボタンが表示されますので、ここをクリックします。

提出済のレポートであっても、受付期間中であれば取り下げができます。

授業科目	タイトル	状態	提出期間	最終提出日時	実施形式	操作
日本の言語学入門(03クラス) 前期/月1	第一回レポート	受付中	2012/01/20 00:00 ~ 2012/01/20 19:50	2012/01/20 14:11	Web	提出取消
日本の言語学入門(03クラス) 前期/月1	第二回レポート	受付中	2012/01/20 00:00 ~ 2012/01/23 16:00		Web	提出

## レポート提出画面

LiveCampus

ホーム 授業サポート

静岡 太郎さん 59:31 ログアウト

Top 授業連絡 レポート 小テスト 授業アンケート 出欠管理 授業評価アンケート 授業トピック 授業共有ファイル 授業リンク 授業FAQ

○ レポート登録

受付中	タイトル	第二回レポート
	提出期間	2012/06/01 00:00 ~ 2012/07/21 00:00
	評価方法	評価(○×)
	説明	第二回レポートです。2012/7/20までに必ず提出してください。
	参考資料	レポート作成用資料.pdf
	伝達事項	

レポート提出履歴

登録されていません。

レポート提出

提出レポート (計50MB以内) **必須**

コメント (1000文字以内)

- ・授業によってはレポート以外に、小テスト、授業アンケート等の機能を利用することがありますが、これらの操作画面も「授業サポート」メニューの上部に並んだ各ボタンから遷移する流れとなります。

## 成績経年グラフの参照

授業支援システムの一部である「eポートフォリオ」の画面上で、単位修得状況の経年グラフを確認することができます。年度別の評価別単位数も表示されますので、適宜参考にしてください。

### eポートフォリオ画面への切替

LiveCampus

ホーム トップメニュー

静岡 太郎さん 59:16 ログアウト

授業サポート

- 授業サポート
- キャンパスライフ
- eポートフォリオ**

重要なメッセージ

個人設定

お知らせ 未読:0件

システム連携リンク

条件変更

## プロフィールシート画面

eポートフォリオのメニュー一覧から「プロフィールシート」を選択します。

LiveCampus ホーム eポートフォリオ

カテゴリ Top プロフィールシート Webスペース

プロフィールシート 印刷用画面を表示

単位修得状況では、年度ごとに成績の確認を行うことができます。

### 単位修得状況

#### 年度別評価

年度別評価

年度	秀	優	良	可	不可	再試	合	認定	その他	否
2010年度	4	10	21	6	6	0	2	0	0	0
2011年度	2	13	20	16	6	0	0	0	2	0
2012年度	0	2	8	6	4	0	0	0	0	0
合計	6	25	49	28	16	0	2	0	2	0

#### 累積単位数

累計修得単位数

年度	単位数
2010	43
2011	94
2012	110

年度	秀	優	良	可	不可	再試	合	認定	その他	否	GPA	修得単位数
2010年度	4	10	21	6	6	0	2	0	0	0	1.86	43
2011年度	2	13	20	16	6	0	0	0	2	0	1.75	51
2012年度	0	2	8	6	4	0	0	0	0	0	1.41	16
合計	6	25	49	28	16	0	2	0	2	0	1.73	110

年度別評価グラフのデータを表形式で出力しています。

### 成績情報

この画面では、対象年度の成績情報を参照できます。

#### 2012年度成績情報

10件表示 総数: 10

学期	科目区分	科目名	単位区分	単位	得点	評価
前期	自由 教職	教職入門Ⅱ	選択	1	85	優
前期	自由 教職	教育相談	選択	2	85	優
前期	自由 教職	生涯学習概論	選択	2	85	優
前期	自由 教職以外	博物館実習	選択	1	85	優

全10件中1件目から10件目までを表示 先頭へ 前へ 1 次へ 最後へ

年度のリンクから、年度別修得科目の一覧画面に遷移します。



## 不正アクセス行為の禁止等に関する法律

(目的)

第一条 この法律は、不正アクセス行為を禁止するとともに、これについての罰則及びその再発防止のための都道府県公安委員会による援助措置等を定めることにより、電気通信回線を通じて行われる電子計算機に係る犯罪の防止及びアクセス制御機能により実現される電気通信に関する秩序の維持を図り、もって高度情報通信社会の健全な発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第二条 この法律において「アクセス管理者」とは、電気通信回線に接続している電子計算機（以下「特定電子計算機」という。）の利用（当該電気通信回線を通じて行うものに限る。以下「特定利用」という。）につき当該特定電子計算機の動作を管理する者をいう。

2 この法律において「識別符号」とは、特定電子計算機の特定利用をすることについて当該特定利用に係るアクセス管理者の許諾を得た者（以下「利用権者」という。）及び当該アクセス管理者（以下この項において「利用権者等」という。）に、当該アクセス管理者において当該利用権者等を他の利用権者等と区別して識別することができるように付される符号であって、次のいずれかに該当するもの又は次のいずれかに該当する符号とその他の符号を組み合わせたものをいう。

一 当該アクセス管理者によってその内容をみだりに第三者に知らせてはならないものとされている符号

二 当該利用権者等の身体の一部若しくは一部の影像又は音声を用いて当該アクセス管理者が定める方法により作成される符号

三 当該利用権者等の署名を用いて当該アクセス管理者が定める方法により作成される符号

3 この法律において「アクセス制御機能」とは、特定電子計算機の特定利用を自動的に制御するために当該特定利用に係るアクセス管理者によって当該特定電子計算機又は当該特定電子計算機に電気通信回線を介して接続された他の特定電子計算機に付加されている機能であって、当該特定利用をしようとする者により当該機能を有する特定電子計算機に入力された符号が当該特定利用に係る識別符号（識別符号を用いて当該アクセス管理者の定める方法により作成される符号と当該識別符号の一部を組み合わせた符号を含む。次項第一号及び第二号において同じ。）であることを確認して、当該特定利用の制限の全部又は一部を解除するものをいう。

4 この法律において「不正アクセス行為」とは、次の各号のいずれかに該当する行為をいう。

一 アクセス制御機能を有する特定電子計算機に電気通信回線を通じて当該アクセス制御機能に係る他人の識別符号を入力して当該特定電子計算機を作動させ、当該アクセス制御機能により制限されている特定利用をし得る状態にさせる行為（当該アクセス制御機能を付加したアクセス管理者がするもの及び当該アクセス管理者又は当該識別符号に係る利用権者の承諾を得てするものを除く。）

二 アクセス制御機能を有する特定電子計算機に電気通信回線を通じて当該アクセス制御機能による特定利用の制限を免れることができる情報（識別符号であるものを除く。）又は指令を入力して当該特定電子計算機を作動させ、その制限されている特定利用をし得る状態にさせる行為（当該アクセス制御機能を付加したアクセス管理者がするもの及び当該アクセス管理者の承諾を得てするものを除く。次号において同じ。）

三 電気通信回線を介して接続された他の特定電子計算機が有するアクセス制御機能によりその特定利用を制限されている特定電子計算機に電気通信回線を通じてその制限を免れることができる情報又は指令を入力して当該特定電子計算機を作動させ、その制限されている特定利用をし得る状態にさせる行為

(不正アクセス行為の禁止)

第三条 何人も、不正アクセス行為をしてはならない。

(他人の識別符号を不正に取得する行為の禁止)

第四条 何人も、不正アクセス行為（第二条第四項第一号に該当するものに限る。第六条及び第十二条第二号において同じ。）の用に供する目的で、アクセス制御機能に係る他人の識別符号を取得してはならない。

(不正アクセス行為を助長する行為の禁止)

第五条 何人も、業務その他正当な理由による場合を除いては、アクセス制御機能に係る他人の識別符号を、当該アクセス制御機能に係るアクセス管理者及び当該識別符号に係る利用権者以外の者に提供してはならない。

(他人の識別符号を不正に保管する行為の禁止)

第六条 何人も、不正アクセス行為の用に供する目的で、不正に取得されたアクセス制御機能に係る他人の識別符号を保管してはならない。

(識別符号の入力を不正に要求する行為の禁止)

第七条 何人も、アクセス制御機能を特定電子計算機に付加したアクセス管理者になりすまし、その他当該アクセス管理者であると誤認させて、次に掲げる行為をしてはならない。ただし、当該アクセス管理者の承諾を得てする場合は、この限りでない。

一 当該アクセス管理者が当該アクセス制御機能に係る識別符号を付された利用権者に対し当該識別符号を特定電子計算機に入力することを求める旨の情報を、電気通信回線に接続して行う自動公衆送信（公衆によって直接受信されることを目的として公衆からの求めに応じ自動的に送信を行うことをいい、放送又は有線放送に該当するものを除く。）を利用して公衆が閲覧することができる状態に置く行為

二 当該アクセス管理者が当該アクセス制御機能に係る識別符号を付された利用権者に対し当該識別符号を特定電子計算機に入力することを求める旨の情報を、電子メール（特定電子メールの送信の適正化等に関する法律（平成十四年法律第二十六号）第二条第一号に規定する電子メールをいう。）により当該利用権者に送信する行為

(アクセス管理者による防御措置)

第八条 アクセス制御機能を特定電子計算機に付加したアクセス管理者は、当該アクセス制御機能に係る識別符号又はこれを当該アクセス制御機能により確認するために用いる符号の適正な管理に努めるとともに、常に当該アクセス制御機能の有効性を検証し、必要があると認めるときは速やかにその機能の高度化その他当該特定電子計算機を不正アクセス行為から防御するため必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

《中略》

(罰則)

第十一条 第三条の規定に違反した者は、三年以下の懲役又は百万円以下の罰金に処する。

第十二条 次の各号のいずれかに該当する者は、一年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処する。

一 第四条の規定に違反した者

二 第五条の規定に違反して、相手方に不正アクセス行為の用に供する目的があることの情を知ってアクセス制御機能に係る他人の識別符号を提供した者

三 第六条の規定に違反した者

四 第七条の規定に違反した者

五 第九条第三項の規定に違反した者

第十三条 第五条の規定に違反した者（前条第二号に該当する者を除く。）は、三十万円以下の罰金に処する。

附則

## 13 情報基盤センターの利用について

情報基盤センターは、研究・教育利用を目的とした全学の共同利用施設ですので、学生の皆さんも大いに利用してください。センター実習室の教育用コンピュータは、全学生が利用できるようになっています。浜松キャンパスに浜松オフィス、静岡キャンパスに静岡オフィスがあります。

利用にはセンターから発行された利用者コードとパスワードが必要となりますが、これらは各学部教務から通知されます。

情報基盤センター実習室は、授業で使用している場合を除き、下記の時間帯で利用できます。下記の点に特に注意して、マナーを守って利用してください。

- ① パスワードは他人に分からないようにし、他人に自分の利用者コードを使用させない。
- ② 飲食・喫煙は厳禁です。
- ③ パソコンの設定を教員の指示なく勝手に変更しない。
- ④ 図書館と同じように静粛に学習する場です。

なお、「センター利用について」をよく読んでから利用してください。

※<http://www.cii.shizuoka.ac.jp/> の「学内専用サイト」をクリックし、「利用案内」の各項をクリックする。

不明な点は、センター管理室にお問い合わせください。

### <情報基盤センター実習室一覧>

キャンパス	室名	PC台数	利用時間(平日)	備考
静岡キャンパス	共通教育L棟 実習室1	60	8:30~21:00	調整作業日は利用時間が変更になります。  休業期間は利用時間の変更と閉鎖になる実習室があります。  休日は終日閉鎖しています。
	共通教育L棟 実習室2	50	8:30~21:00	
	共通教育L棟 実習室3	50	8:30~21:00	
	共通教育L棟 実習室4	24	8:30~21:00	
	共通教育L棟 実習室5	25	8:30~21:00	
	共通教育L棟 実習室6	50	8:30~17:00	
浜松キャンパス	工学部7号館 計算機室1	65	8:30~21:00	
	工学部7号館 計算機室2	25	8:30~21:00	
	工学部5号館 306 電子計算機室	100	8:30~21:00	

※授業での利用状況及び利用時間については、情報基盤センターのホームページで確認してください。



## 14 本学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する申合せ\*

平成12年 2月 3日 制定  
平成25年 2月 7日 一部改正

1. Intensive Language Program, University of Nebraska at Omaha (ILUNO)を修了した学生およびアルバータ大学 Visiting Student Certificate Program (VSCP)を修了した学生の申請に基づき、「英語海外研修 A」、「英語海外研修 B」、「英語ディスカッション」、「英語インテンシブ A」、「英語インテンシブ B」、「アカデミックイングリッシュ I」のうちの未修得 2 科目 4 単位として認め、評価は「秀」とする。 \*\*
2. 朝鮮大学校サマースクールの韓国語研修を受講し、最終試験に合格、修了証明書を授与された学生の申請に基づき、「初修外国語（現代韓国語） I」、「初修外国語（現代韓国語） II」、「初修外国語（現代韓国語） III」、「初修外国語（現代韓国語） IV」のいずれか1 科目 2 単位として認め、評価は「認定」とする。
3. 以下の外部試験において所定のスコアを収めた学生の申請に基づき、以下に掲げる教養科目の英語科目群のうち所定の単位を認め、評価は「秀」とする。 \*\*\*, \*\*\*\*

	「英語コミュニケーション I」 および「英語演習 I」の 計 2 単位分まで	左の科目に「英語演習 III」を 加えた計 4 単位分まで
実用英語技能検定試験	準 1 級	1 級
TOEIC	730 点以上	875 点以上
TOEFL-PBT, TOEFL-ITP	550 点以上	600 点以上
TOEFL-iBT	80 点以上	100 点以上

4. 静岡県西部地区「共同授業」を 2 年次以降に受講し、修得した単位については、その授業科目を学際科目 2 単位とし、評価は修得した単位の素点を基に評価する。
5. 国公立機関「連携講義」を 2 年次以降に受講し、修得した単位については、その授業科目を学際科目 2 単位とし、評価は修得した単位の素点を基に評価する。
6. 放送大学の特別聴講学生として放送大学の講義を受講し、単位認定試験に合格した学生は、受講科目を教養科目として読替えて単位を認め、評価は「認定」とする。なお、授業科目の読替表等詳細は別途指示する。
7. 単位修得済み科目への認定申請はできない。

\*この申合せは、平成 25 年 4 月 1 日から実施する。ただし、平成 24 年度以前に入学した学生については、この申合せにかかわらず、従前のおりとする。

\*\*申請には国際交流センター発行の証明書が必要である。証明書の発行を受けるためには、派遣にあたって国際交流センターが定める条件を満たす必要がある。

\*\*\*入学 1 年前の 4 月 1 日（NIFEE は 9 月 1 日）以降に受験したスコアを有効とし、公式な証明書の提出が必要である。また、「英語演習 I」および「基礎英語演習」の期末試験として行う TOEIC IP テストについては、上記 3 は適用しない。

\*\*\*\*同一基準による認定は 1 回限りとし、上位基準で追加申請する場合には、既認定単位を合算する。

## 15 静岡大学全学教育科目規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人静岡大学学則(昭和24年12月21日制定)第31条の規定に基づき、大学教育センター(以下「センター」という。)が開設する授業科目(この規程において「全学教育科目」という。)に関し、必要な事項を定める。

(全学教育科目の実施)

第2条 全学教育科目は、全教員の責任と協力の下に全学で行う。

2 前項の全学教育科目に係る教育の企画、運営及び実施については、センターがこれに当たる。

(全学教育科目の区分)

第3条 全学教育科目の区分は、次のとおりとする。

大区分	科目区分	小科目区分
教養科目	基軸教育科目	新入生セミナー
		情報処理
		英語
		初修外国語
		健康体育
		フィールドワーク
		キャリア形成科目
	現代教養科目	個別分野科目
		学際科目
	留学生科目	日本語、日本事情
	教職等資格科目	教職教養科目
※NIFEE科目	基礎日本語	
NIFEE教養科目	NIFEE教養	
専門科目	教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ
		教職専門科目Ⅱ
		学芸員科目
	理系基礎科目	

※NIFEE(National Interfacing Engineers Education Program、以下「NIFEE」という。)は工学部秋季入学特別プログラムをいう。

(授業科目及び単位数)

第4条 学部ごと対象となる全学教育科目の授業科目及び単位数は、別表Ⅰのとおりとする。

(単位の計算)

第5条 各授業科目の単位は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、当該授業による教育効果及び授業時間外に必要な学修を考慮して、次に定める基準により計算する。

- (1) 講義については、1時間の授業に対して2時間の授業時間外の学修を必要とするものとし、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習については、授業の内容により、1時間の授業に対して2時間又は0.5時間の授業時間外の学修を必要とするものとし、15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実験、実習及び実技については、授業の内容により、1時間の授業に対して0.5時間の授業時間外の学修を必要とするときは30時間、授業時間外の学修を要しないときは45時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 講義、演習、実験、実習又は実技のうち、複数の方法の併用により授業を行う場合は、その組み合わせに応じ、次表の学修時間により計算した総学修時間数が45時間となる授業をもって1単位とする。

授業の種類	授業1時間当たりの学修時間
講義	3時間
演習	授業の内容により1.5時間又は3時間
実験、実習及び実技	授業の内容により1時間又は1.5時間

(履修要件)

第6条 学生が履修すべき教養科目の単位数は、別表Ⅱのとおりとする。

2 学生は、前項の定めにより授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

(履修手続)

第7条 学生は、履修しようとする授業科目を所定の期日までに、所属する学部へ届け出なければならない。

(試験及び単位の認定)

第8条 試験は、学期末又は学年末に行う。学期を単位としない授業科目については、随時行う。

2 授業科目の単位の認定は、試験その他の方法により行う。

3 前条に定める手続を経ない授業科目については、単位の認定を行わない。

4 病気その他やむを得ない事由で試験を受けることのできなかつた者は、センターが別に定める手続きにより追試験を受けることができる。

(成績評価)

第9条 成績評価は、「秀」、「優」、「良」、「可」及び「不可」の評語で表し、「秀」、「優」、「良」及び「可」を合格とし、「不可」を不合格とする。

2 前項の規定のほか、授業科目によっては、「合」及び「否」の評語で表すことができることとし、「合」を合格とし、「否」を不合格とする。

(入学前の既修得単位等の取扱い等)

第10条 学生が、入学前の既修得単位等の認定等を学部長に願い出たときの教養科目の取扱いは、センターが別に定める。

(編入学等の単位の取扱い)

第11条 編入学、転入学又は再入学を許可された者の教養科目の修得単位の取扱いは、センターが別に定める。

(科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生)

第12条 全学教育科目を受講する科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生に関し必要な事項は、センターが別に定める。

(補則)

第13条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に必要な事項は、センターが別に定める。

附 則

1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。

2 静岡大学共通科目規程は、廃止する。

3 静岡大学専門科目(基礎)に関する規程は、廃止する。

4 平成17年度以前に入学した学生については、この規程(第9条を除く。)にかかわらず、なお従前の例による。

<平成19年～平成24年の附則は省略>。

附 則

1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

2 平成24年度以前に入学した学生については、平成24年度工学部 National Interfacing Engineers Education Program(秋季入学特別プログラム)入学者を除き、この規程による改正後の静岡大学全学教育科目規程の規定にかかわらず、なお従前の例による。

**別表Ⅰ(「5 全学教育科目の学部別授業科目一覧(p 6～)」を参照してください)**

**別表Ⅱ(「6 各学部の教養科目必要単位数・履修年次表(p 18～)」を参照してください)**

## 16 教養科目の成績評価に関わる指針

平成 14 年 12 月 5 日

### 制定の目的

授業担当教員（非常勤講師を含む。以下同じ。）が以下の各項目を念頭におき、成績評価の透明性・厳正性の向上に努めることを目的とする。

- 1 成績評価は、授業科目の目的・目標に照らして、その達成度について行われるものである。したがって、各授業科目について、その目的や到達目標を明確にすることが重要である。
- 2 成績評価は、各授業科目の目的・目標に沿って行われるものであるとともに、教養教育全体として円滑かつ効果的に実施されるものでなければならない。
- 3 教養教育の効果を高めるため、厳格かつ説明可能な成績評価を実施する。
- 4 各授業科目の成績評価は、授業担当教員の責任において行う。
- 5 授業担当教員は、履修学生に評価の基準を明確に示したうえで、その基準に沿って評価する。
- 6 同一授業科目の成績評価については、授業担当教員によって成績評価の極端なばらつきが生じないように、分科会は成績評価の基準設定に努める。  
特に、学生が選択できないクラス指定の授業科目の成績評価基準については、成績評価方法も含めてできる限り共通化の方向を検討する。
- 7 授業担当教員は、学生の学習意欲の促進や学習指導に努める。
- 8 授業担当教員は、受講生の出席を把握するよう努める。

## 17 入学前の既修得単位等の取り扱い等について

全学教育科目規程第10条に関する入学前の既修得単位の取り扱いについて、次のように定める。

### 1 既修得単位の取り扱いの手順

#### (1) 申請の窓口

学生は、別紙様式第1の書類(※)を学生の所属する学部の窓口へ所定の期日までに提出する。

#### (2) 審査書類等

教務課は、審査書類及び必要な資料を準備する。

#### (3) 審査及び協議

##### ① 授業計画実施専門委員会で申請資料を審査する。

審査に際して、専門委員会は必要な場合、認定申請科目に関係する科目部と協議する。

##### ② 専門委員会での審査結果を、大学教育センター会議で承認する。

##### ③ 大学教育センター会議で承認した結果に基づき、大学教育センター長は学生の所属する学部長と協議し、学生の入学前に修得した教養科目の単位認定を決定する。

### 2 1年次に入学した者で、教養科目の単位認定の対象とすることができる入学前の既修得単位及び認定科目の範囲等は、次のとおりとする。

#### (1) 次に掲げる教育課程等で修得した単位及び本学の平成17年度以前のカリキュラムで修得した単位

##### ① 大学又は短期大学（本学以外）

##### ② 短期大学又は高等専門学校の専攻科

##### ③ 大学の専攻科（本学以外）

##### ④ 高等専門学校（4・5学年で履修するもので、大学教育に相当する水準を有するものに限る。）

##### ⑤ 専修学校の専門課程のうち修業年限が2年以上のもの（大学教育に相当する水準を有するものに限る。）

上記で修得した科目のうち、教養科目で単位認定する科目は、次のとおりとする。

##### ① 英語科目（本学で定める必修の単位分）

##### ② 初修外国語科目（本学で定める必修の単位分）

##### ③ 個別分野科目（本学で定める必修の単位分）

##### ④ 学際科目（本学で定める必修の単位分）

##### ⑤ 健康体育科目（健康体育Ⅰ、健康体育Ⅱ）

##### ⑥ 留学生科目（日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ）

##### ⑦ 教職教養科目（教育の原理、発達と学習、教育と社会）

ただし、認定課程を有する大学及び認定課程を有する短期大学（専攻科を含む。）において「教職に関する科目」として修得したものに限る。

#### (2) 本学の平成18年度以降のカリキュラムで修得した単位

教養科目（英語及び初修外国語を除く）について修得した科目全部を認定の取扱科目とする。

#### (3) 「入学前の既修得単位等の単位の認定に関する規程」第2条第2項第5号及び第6号に該当する学修（実用英語検定、TOEIC 及び TOEFL の成果の認定）

単位の認定については、「本学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する申合せ」の第3項を準用する。（p61参照）

### 3 本取り扱いは、平成19年度入学者から適用する。

※全学教育科目の申請書は、教務課教務係と工学部教務係（教養教育）にあります。専門科目は所属学部の学務（教務）係に相談してください。

## 18 編入学等の単位の取り扱いについて

全学教育科目規程第 11 条に関する取り扱いについて、次のように定める。

- 1 3 年次編入の学生について、教養科目の取り扱いを次のようにする。
  - (1) 「編入学の取り扱いに関する申し合わせ」(全学教務委員会平成 6 年 3 月 1 日制定、全学教育企画委員会平成 18 年 7 月 6 日修正)により取り扱う。
  - (2) 上記の取り扱いに関し、学部事務部と教務課が事務的連絡を行い、その内容を授業計画実施専門委員会が検討し、大学教育センター会議へ報告する。
- 2 転入学又は再入学を許可された者の教養科目の取り扱いを次のようにする。

全学教育科目規程第 10 条に関する取り扱いに準じて取り扱う。

## 19 科目等履修生等の取り扱いについて

全学教育科目規程第 12 条に関する取り扱いについて、次のように定める。

- 1 科目等履修生の取り扱い
  - (1) 全学教育科目に関する受講の審査は、授業計画実施専門委員会が行う。
    - ① 全学教育科目に係る科目等履修生の出願等について、別紙(※)のとおり行う。
    - ② 選考は全学同一期間に行う。

前学期の授業の履修に関して・・・3月中旬(年度により調整)  
後学期の授業の履修に関して・・・9月中旬(年度により調整)
  - (2) 納付金(検定料・入学料・授業料)などの事務の処理
    - ① 全学教育科目と学部専門科目の申請者について  
検定料を 1 回納入という便宜を図ることから、専門科目に係る学部で取り扱う。
    - ② 全学教育科目のみの申請者について  
静岡キャンパス：教務課  
浜松キャンパス：工学部教務係(教養教育) } で取り扱う。
  - (3) 履修できる授業科目及び単位数
    - ① 1 年間に履修できる単位数は、10 単位以内とする。
    - ② 受講可能人数は、1 授業科目について 3 名以内とする
    - ③ 全学教育科目のうち、情報処理、英会話 S E、個別分野科目、学際科目、教職教養科目、教職専門科目及び学芸員科目とする。
- 2 聴講生及び特別聴講学生の取り扱い  
科目等履修生に準じて行う。
- 3 本取り扱いは、平成 21 年度から適用する。

ただし、記の 1 第 2 項第 2 号については、平成 20 年度から適用する。

※出願要領は、教務課と工学部教務係(教養教育)にあります。



## 20 留学生科目に関する申合せ

平成24年11月8日制定  
大学教育センター会議

この申合せは、静岡大学全学教育科目規程別表Ⅰ（第4条関係）に規定する、留学生科目の修得単位の振替及び履修に関し、必要な事項を申し合わせる。

### 1 日本語について

- (1) 日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ及びⅥは留学生対象の科目とし、修得した単位は英語（1単位科目及び2単位科目）、初修外国語（1単位科目及び2単位科目）又は現代教養科目の単位として振替えることができる。
- (2) 一定以上の日本語運用能力を有していると授業担当者が認定した場合を除いて、留学生は日本語Ⅰ、Ⅱ及びⅢの3科目を履修するものとする。（履修を希望しない場合は、必ず授業担当者の認定を受けなければならない。）
- (3) 留学生以外の学生は履修できない。

### 2 日本事情について

- (1) 日本事情は、原則として留学生対象の科目とし、修得した単位は現代教養科目の単位として振替えることができる。
- (2) 授業担当者が特に認めた場合は、留学生以外の学生が学際科目として履修することができる。

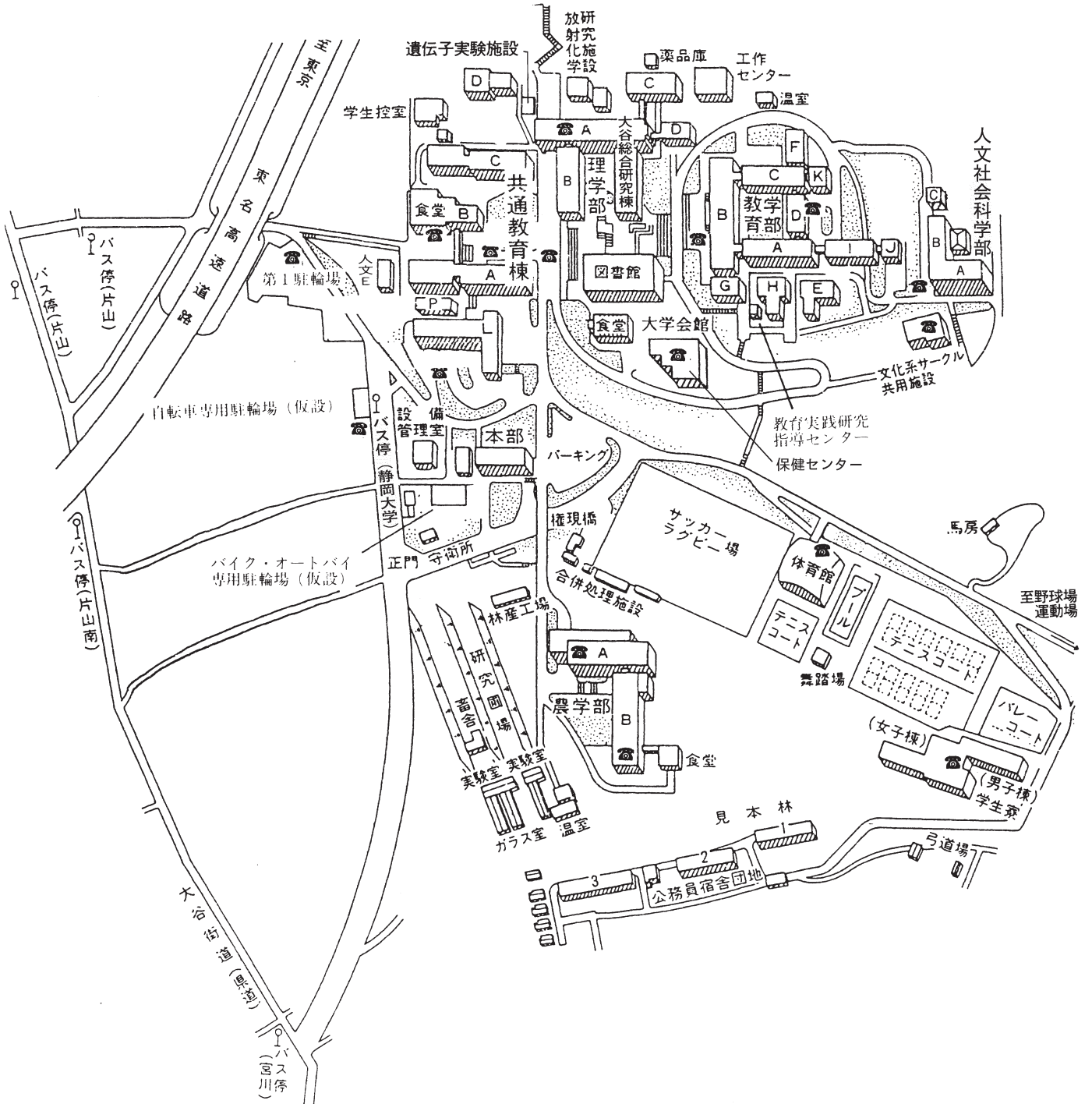
#### 附 則

- 1 この申合せは、平成25年4月1日から実施する。
- 2 平成24年度以前に入学した学生については、この申合せの規定にかかわらず、なお従前の例による。

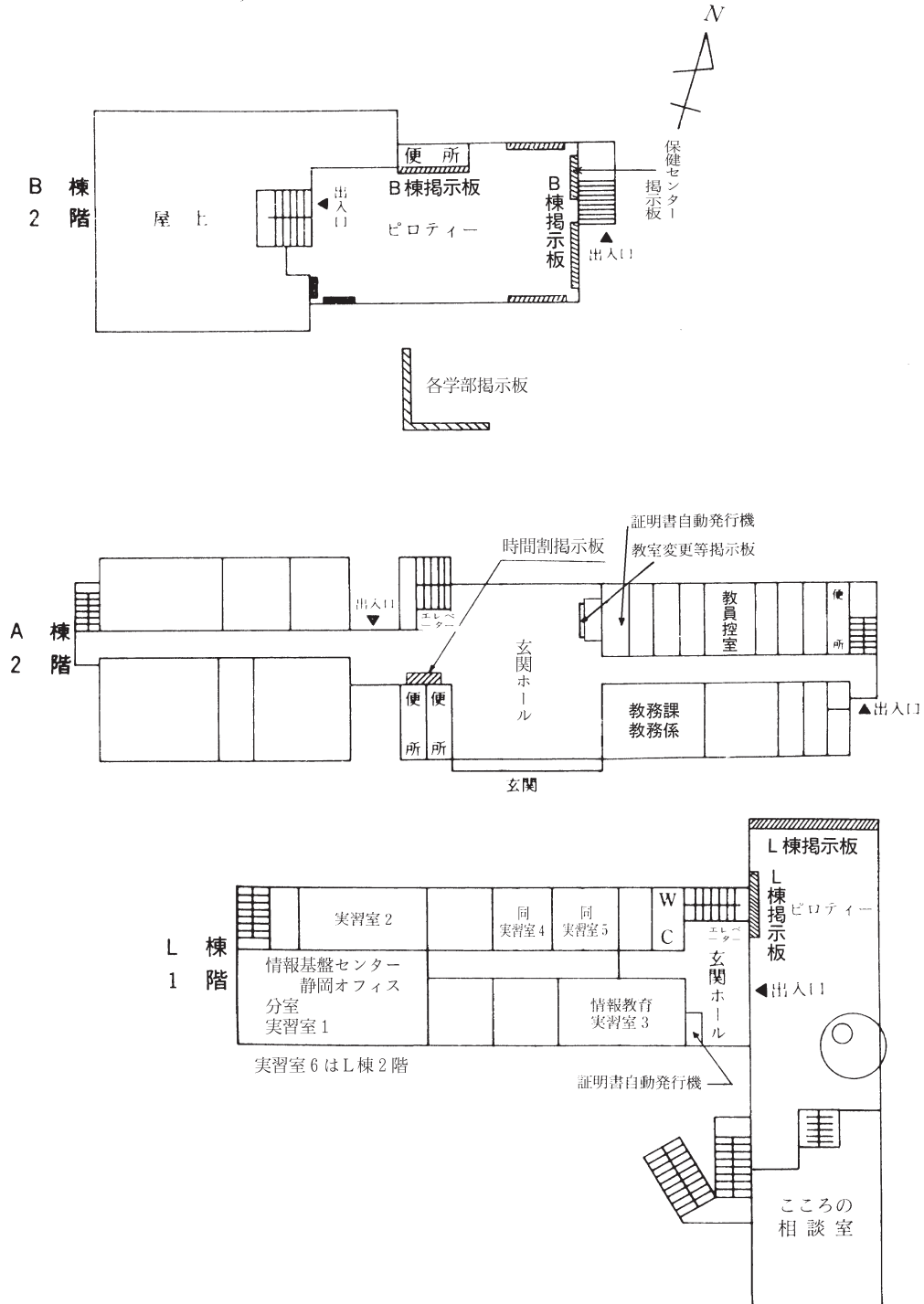
## 21 静岡キャンパス共通教育棟校舎配置図

静岡大学静岡地区（静岡キャンパス）  
 〒422-8529 静岡市駿河区大谷 8 3 6

人文社会科学部	附属図書館
教育学部	本部
理学部	保健センター
農学部	



## 22 教務課掲示板の配置図等



# 23 浜松キャンパス建物配置図・教室名

## 和地山グラウンド

